

ホフマン輪窯 6 号窯等展示活用事業 基本計画

令和5年1月

目 次

(1) 改修の背景と概要	1
1) 日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設とは	1
2) 主要な建造物について	3
a) ホフマン輪窯 6号窯	
b) 旧事務所【竣工：1887（明治20）年頃】	
c) 旧変電室【竣工：1906（明治39）年】	
d) 備前渠鉄橋【竣工：1895（明治28）年頃】	
3) 渋沢栄一との関わり ～渋沢栄一と日本煉瓦製造株式会社～	6
4) 改修の背景	10
(2) 施設計画	11
1) 施設コンセプト	11
2) 施設機能	11
a) 展示解説機能	
b) ガイダンス機能	
c) 飲食機能	
d) 収蔵保管機能	
e) 事務所機能	
f) ユニバーサルデザイン	
g) 感染症対策	
3) 施設計画	13
a) 活用棟	
b) 6号窯	
c) 旧事務所	
d) 旧変電室、備前渠鉄橋	
(3) 展示計画	16
1) 展示コンセプト	16
2) 展示ストーリー	17
3) 展示解説方法	18
a) 展示解説の基本方針	
b) ゾーニングと見学動線計画	
c) 活用棟の展示解説方法	
d) 6号窯の展示解説方法	
e) 旧事務所（煉瓦史料館）	
f) 旧変電室/備前渠鉄橋	
g) 体験プログラム	

4) 展示空間イメージ.....	26
a) 6号窯展示概要 (案)	
b) 展示手法について.....	
c) 展示空間イメージ.....	
d) 見学想定時間.....	
(4) 運営計画.....	34
1) 施設活動.....	34
2) 施設活動の検討.....	34
3) 運営体制.....	36
4) 施設運営形態.....	36
(5) 整備方針の検討.....	37
1) 施設概要.....	37
2) 関連法令、敷地条件の整理.....	38
3) 平面計画・動線計画.....	39
a) 活用棟.....	
b) 6号窯.....	
c) 動線計画.....	
d) 立面計画.....	
e) 断面計画.....	
f) 構造計画.....	
g) 設備計画.....	
h) 諸室構成表と諸条件.....	
i) 諸室構成図 (案)	
(6) 渋沢栄一関連施設や深谷の観光資源との連携についての検討.....	45
1) 連携を検討する主な施設 (候補)	45
2) 連携を図る工夫、仕組みの検討.....	61
a) 連携による新規性ある体験プログラムやお土産の開発.....	
b) 展示を通じた関連施設の紹介.....	
c) マップ、パンフレットによる周遊支援.....	
d) 周遊を支援する交通結節点としての整備.....	
e) 市内連携イベントの開催.....	

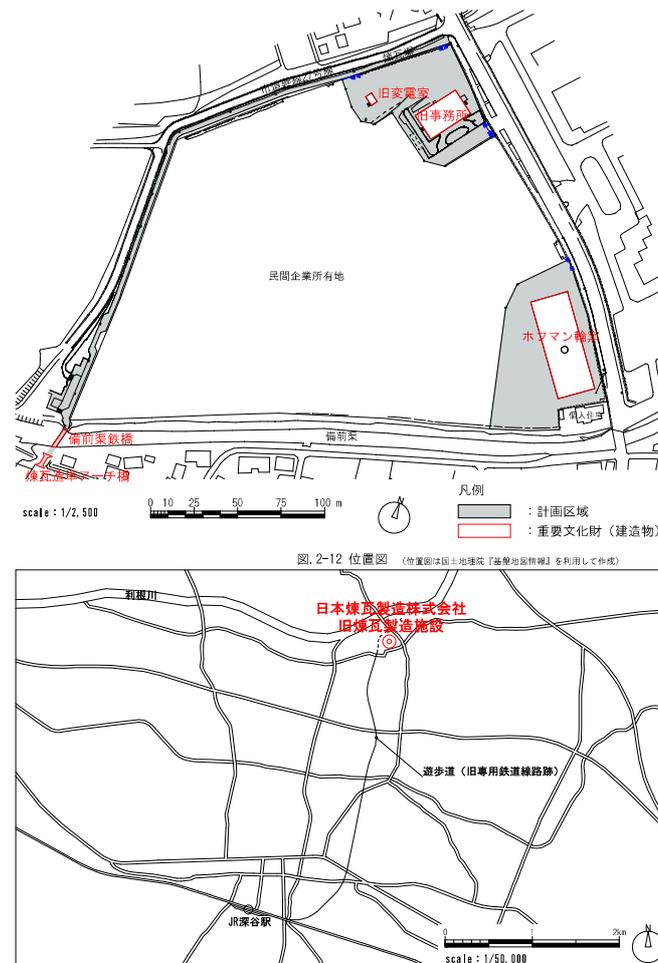
(1) 改修の背景と概要

1) 日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設とは

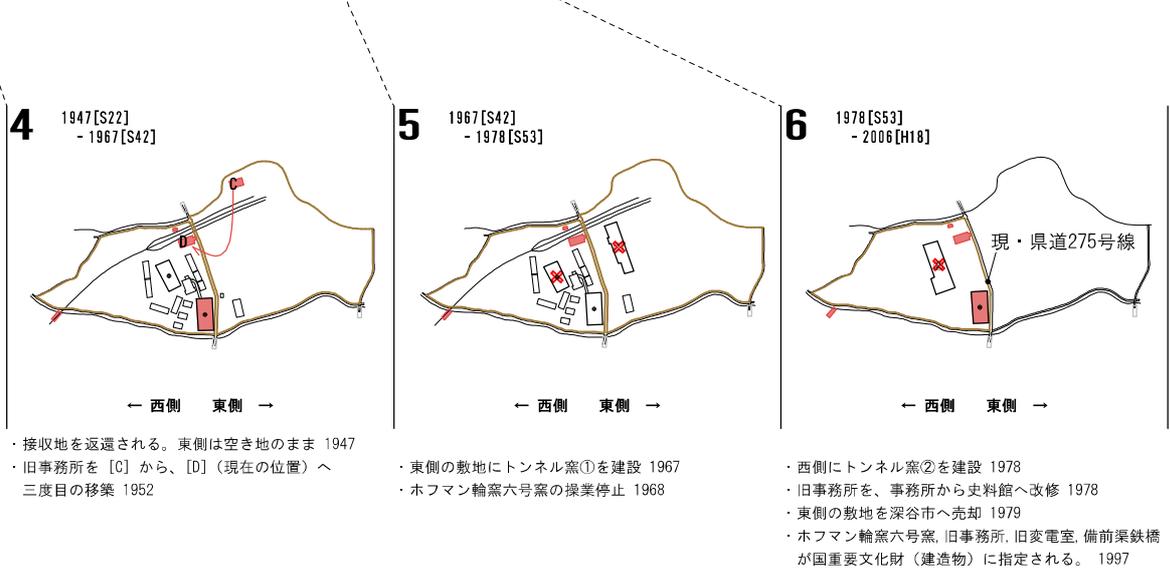
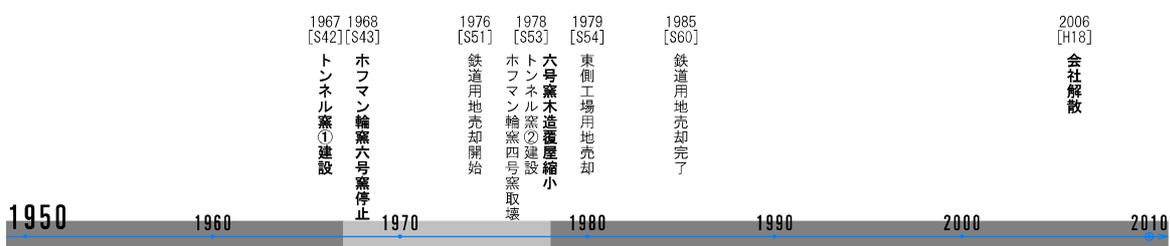
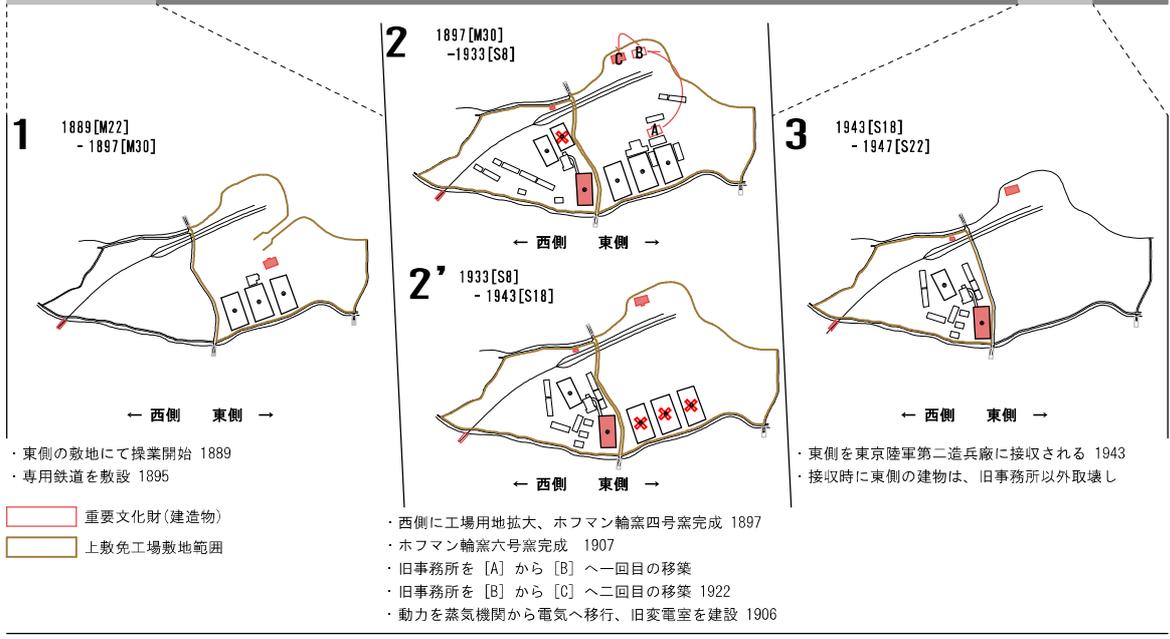
日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設（以下「旧煉瓦製造施設」）は、近代的な煉瓦生産を実現した大規模煉瓦工場の代表的な遺構です。東京駅や表慶館、赤坂離宮など非常に多くの建造物に日本煉瓦製の煉瓦が使用されており、近代日本における煉瓦建築の普及に多大な影響を与えたものとして1997（平成9）年に国の重要文化財に指定されました。旧煉瓦製造施設には、煉瓦生産の最盛期に向けて建設されたホフマン輪窯6号窯（以下「6号窯」）を中心に、物資輸送の変遷を示す備前渠鉄橋、早期の電気導入を示す旧変電室、また事務所兼外国人技師チーゼの居宅として建設され、3回もの移築を経て保存されてきた旧事務所が残されています。

2006（平成18）年、日本煉瓦製造株式会社（以下「日本煉瓦」）が解散し、2007（平成19）年、6号窯、旧事務所、旧変電室が深谷市に寄贈されました。備前渠鉄橋は1983（昭和58）年に寄贈され、遊歩道として整備されています。

【敷地配置図】



【工場施設と敷地の変遷】



2) 主要な建造物について

a) ホフマン輪窯 6号窯

①ホフマン輪窯の特徴

ホフマン輪窯は、窯詰、焼成、冷却、窯出しといった一連の焼成作業を連続的に行うことを達成した点に特徴があります。焼成時の排熱を利用して、窯詰された焼成前の煉瓦を予熱するなどの効率化も図られています。一度点火すれば理論的には半永久的に煉瓦の焼成が可能で、着火毎の燃料を節約し、窯の休止期間を減らすことで生産効率を向上させました。

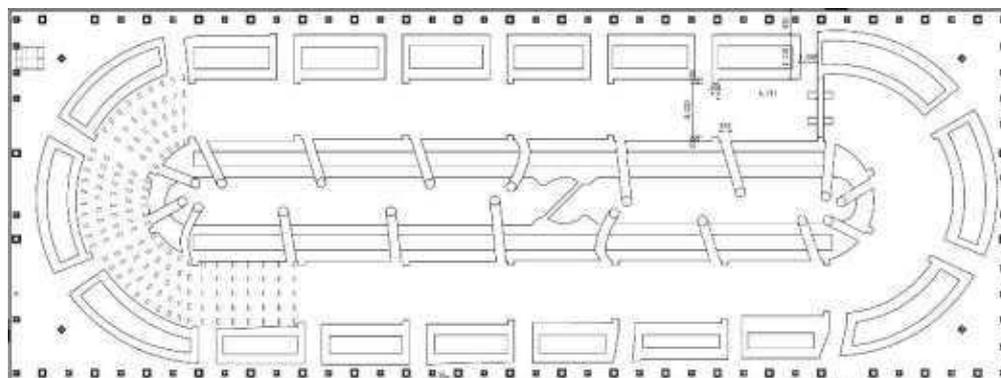
②ホフマン輪窯 6号窯の特徴

ホフマン輪窯 6号窯は長さ56.5m、幅20.0m、高さ3.3m。煉瓦造りの小判型平面で18室の焼成室を持ち、各室の内法は長さ約6m、幅4m、最も高い天井高で2.6mでした。反時計廻りに煉瓦焼成を行った連続窯である。ホフマン輪窯とコール式乾燥室を組み合わせた複合建築であった点に形式的特徴があります。

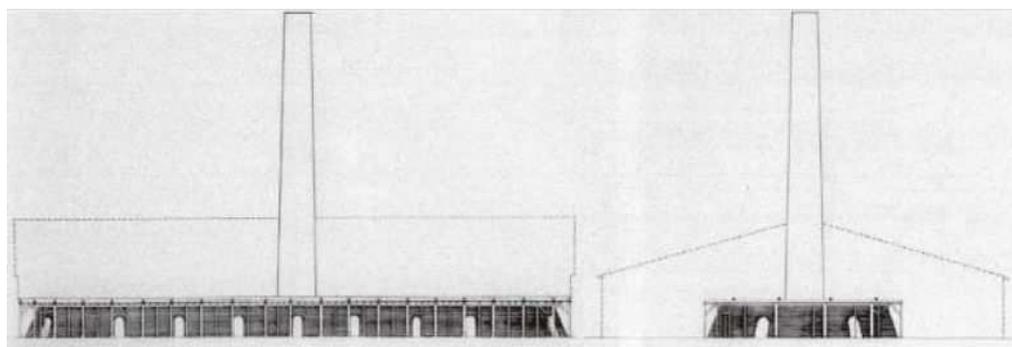
煉瓦造輪窯部分は6号窯を構成する主要な要素であり、かつ施設全体を特徴づけています。主煙道、支煙道、投炭口、各焼成室の出入り口、ドロップアーチ、ダンパーといった各機能、細部を有しており、RC造煙突は、主煙道からの熱と煙を排出する装置でホフマン輪窯の機能を担う重要な一部となっています。

6号窯は、現在国内に残る数少ないホフマン窯のうちで最も規模が大きく代表的なものとして価値が認められています。

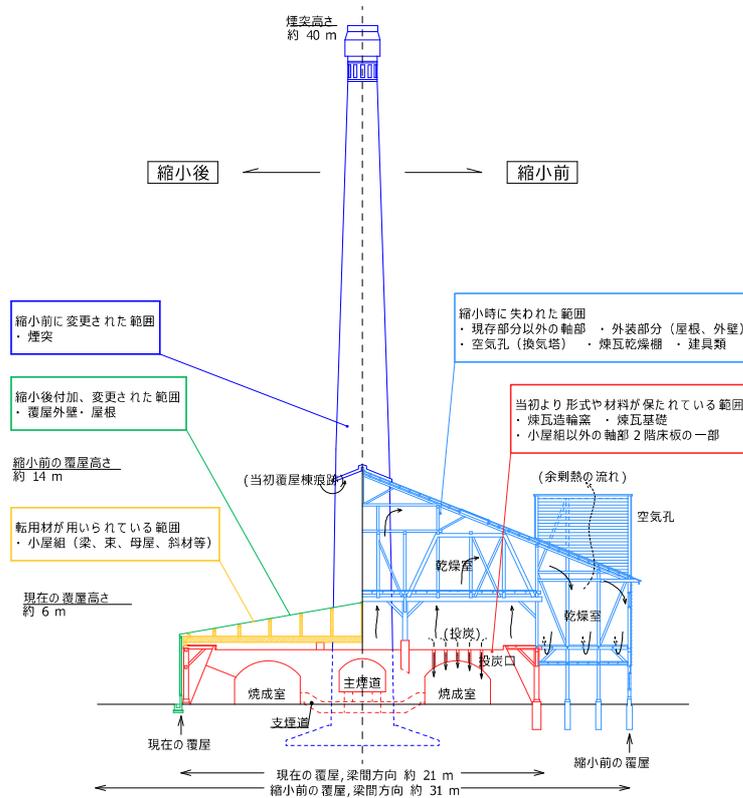
【平面図】



【立面図】



【覆屋等の改築前後の比較】



b) 旧事務所【竣工：1887（明治20）年頃】

現存する工場施設で最も古い、創業当初からの建造物です。木造寄棟造平屋建、棧瓦葺で、外壁は下見板張の洋館。事務所兼住宅として建設され、3度の移築を経ています。

c) 旧変電室【竣工：1906（明治39）年】

1906[明治39]年、工場に電灯線を引いた際に建設されたとされる。煉瓦造切妻造平屋建。工場の稼働を支えた施設です。妻面線形や窓の縁取りに役物煉瓦を用いるなど、小さく簡素な建造物だが、細部の意匠まで工夫がこらされています。

d) 備前渠鉄橋【竣工：1895（明治28）年頃】

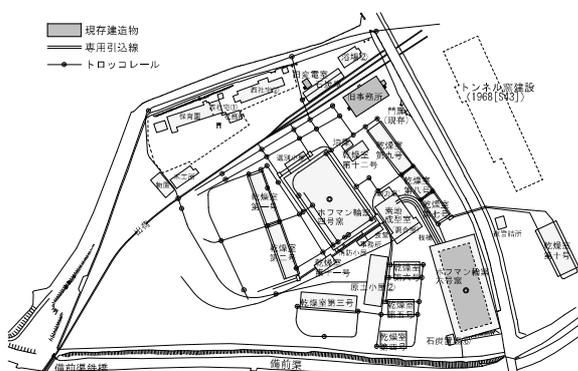
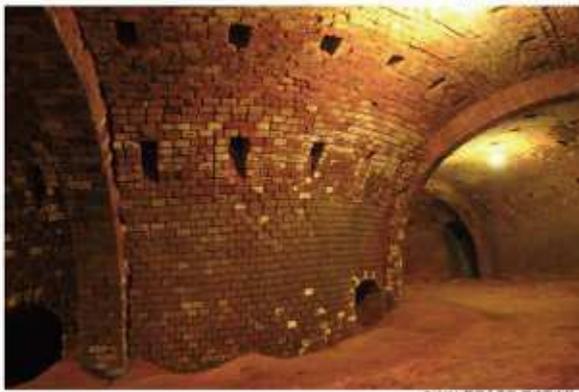
専用鉄道が敷設される際に建設されました。ポータル型鉄橋、煉瓦造単アーチ橋付属。ポータル（C.A.Pownall）は明治期の外国人技師で1882（明治15）～1896（明治29）年の期間で在日したとされています。その間鉸桁の標準設計を行っており、その設計を採用したものをポータル型鉸桁と称しています。備前渠鉄橋は其中でも、「作錬式鉸桁47ft4in」の設計と類似性が高いとされています。

ポータル型鉸桁の技術的特徴は、

- プレートにより「I型」の桁を構成。
- 桁は主にJ型スティフナーにより補強。J型スティフナーはプレートとリベット接合される。
- ブラケットと呼ばれる桁間の補剛材は「ロの字型」に鍛接した枠とし斜材を用いない。

といった点に見られます。

【1968（昭和43）年時点での建造物】



3) 渋沢栄一との関わり ～渋沢栄一と日本煉瓦製造株式会社～

「近代日本経済の父」といわれる渋沢栄一は、1840（天保11）年、現在の深谷市血洗島の農家に長男として生まれました。家業の畑作や養蚕の手伝いのほか、藍の買い付けや藍玉の製造・販売も手伝い、商いの知識や感覚を養いました。また、父や従兄の尾高惇忠に学問の手ほどきを受け、「論語」などを学びました。

1853（嘉永6）年、ペリー率いるアメリカ艦隊が来航して日本に開港を迫ると、世間にはわかに騒がしくなります。幕府の煮え切らない対応や、江戸遊学中に影響を受けた尊王攘夷思想から、栄一は従兄弟たちと、倒幕へつながらる騒動を起こそうと企みます。ただ、従兄の一人・長七郎の強い説得で、計画は中止しました。

倒幕計画を機に深谷を後にした栄一は、京都に向かい、知己を介して一橋家に仕えることとなります。一橋家では様々な業務に取り組みながら、次第に理財に目覚め、藩力を高めるための方策を次々に実践していきました。

1866（慶応2）年、主君である一橋慶喜が15代将軍となり、栄一は幕臣となります。翌年、慶喜の弟・昭武がパリ万博に派遣されることになり、使節団への随行を打診されると、二つ返事で引き受けました。欧州では先進国の実情を目の当たりにし、大きな影響を受けました。

帰国した栄一は、欧州視察での知見をヒントに、静岡に「商法会所」を設立します。これは銀行と商社の機能を併せ持った組織で、設立にあたっては広く出資者を募りました。程なくして明治政府に招かれ、大蔵省の一員として近代日本を整える仕組みづくりに精励します。ただ、民間による商工業の振興が必要だと強く感じていた栄一は、大蔵省を辞職し、以降、一貫して実業界で活躍していきます。スタートは大蔵省時代に種を播いていた「第一国立銀行」の設立です。これを皮切りに、株式組織による企業の創設・育成に力を注ぎ、ガス、鉄道、製紙、紡績、ビールなど約500もの企業の設立や経営に関わりました。

多くの企業経営に携わる中で根底にあったのが、後に提唱する「道徳経済合一説」という考え方で、事業を行うには、公益を尊重する「道徳」と、利益を追求する「経済」が両立しなければならないというものです。

実業以外にも、約600の教育・社会事業や民間外交に尽力し、1931（昭和6）年11月11日、91年の生涯を閉じました。

栄一が関わった企業の一つが、1887（明治20）年に誕生した「日本煉瓦製造会社」（1893年、株式会社に改組）です。新しい国づくりを進めていた明治政府は、諸外国に近代的な日本の姿を示すため、洋風煉瓦造りの官庁街の建設を計画しました。その実現のために、大量に高品質な煉瓦を供給できる民間組織の設立が望まれたのです。設立を打診された栄一は、「私の性分としては国家的意義を有する事業を傍観するわけにはいかない」と回顧録の中で語っています。

煉瓦に適した良質の粘土があり、円滑に原土を供給できる体制があることから、工場は深谷市上敷免に建設されました。政府から派遣されたドイツ人技術者の指揮の下、ホフマン輪窯が造られ、日本で最初の機械式煉瓦工場が稼働を始めます。

上敷免で製造された煉瓦は、東京駅駅舎や迎賓館、日本銀行、鉄道橋など、多くの官公庁や社会インフラに使われました。一つひとつの煉瓦は小さなピースですが、積み重ねることで大きな建造物となって、日本の近代化の一翼を担いました。このことは栄一が唱えていた「合本主義」、すなわち、社会全体に利益をもたらすために、適切な人材や資本を合わせて事業を推進する、という考え方を象徴しているとも言えるでしょう。

これらの煉瓦建造物の中には現存しているものも多く、栄一はじめ、明治の人々が描いた近代国家の姿を今に伝えています。

西暦	和暦	年齢	渋沢栄一の手跡	日本煉瓦製造会社と煉瓦産業の歴史 ◆; 日本煉瓦製造会社のできごと	世の中のできごと
紀元前3000年頃				日干し煉瓦が使われ始める	
紀元前3000年頃				インドで登り窯で焼成煉瓦が作られる	
紀元前1400~1027年頃				中国で日干し煉瓦が登場	
紀元前403~221年以降				中国で焼成煉瓦が登場	
紀元前1世紀頃				古代ローマのウィトルウィウス『建築十書』で(日干し)煉瓦を紹介	
2世紀頃				古代ローマで焼成煉瓦が登場	
224~652頃				ザサン朝ペレシヤで焼成煉瓦でヴォールトが造られる	
6世紀				仏教伝来に伴い「磚(せん) = 煉瓦」が伝わる	
16世紀前半				ハンプトンコート宮殿で、中流階級の建材だった煉瓦が王宮に使用される	
17世紀前半				平戸、長崎のオランダ商館で赤煉瓦が使われた可能性あり	
1840	天保11	0	現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる		アヘン戦争勃発
1853	嘉永6	13			黒船来航
1854	嘉永7/安政1	14			日米和親条約締結
1857	安政4	17		長崎鋳鉄所でわが国初の赤煉瓦製造が行われる	
1858	安政5	18	従妹ちよ(尾高惇忠の妹)と結婚	ドイツ人フリードリッヒ・ホフマン、ホフマン式輪窯を考案	日米修好通商条約
1859	安政6	19			
1860	安政7/万延1	20			
1861	万延2/文久1	21			
1862	文久2	22			
1863	文久3	23	高崎城乗っ取り、横浜焼き村を企てるが、計画を中止し京都に出奔		
1864	文久4/元治1	24	一橋慶喜に仕える		外国艦隊下関を視察
1865	元治2/慶応1	25			
1866	慶応2	26	徳川慶喜、征夷大将軍となり、幕臣となる	横須賀鋳鉄所内で建築用煉瓦製造が行われる	長州征伐、薩長同盟
1867	慶応3	27	徳川昭武に随行してフランスへ立出(パリ万博使節団)		大政奉還 王政復古 戊辰戦争
1868	慶応4/明治1	28		小菅ドックの捲上げ機小屋に薄手の筒筒煉瓦が使用される	
1869	明治2	29	静岡藩に「商法会所」設立 明治政府に出仕	大阪造幣寮工場建設用煉瓦が現地で製造される	東京遷都 東京-横浜間に電信開通
1870	明治3	30		丹治利右衛門ら、堺に大阪府最初の民営煉瓦工場を設立	
1871	明治4	31	紙幣頭となる 『立会略則』発刊	富岡製糸所建築用煉瓦を深谷の瓦職人 藤澤直次郎 が現地で製造	鹿藩置県
1872	明治5	32		盛煉社、ウォールズの指導でホフマン式輪窯を築造し煉瓦製造	新橋-横浜間鉄道開通
1873	明治6	33	大蔵省を辞職 第一国立銀行開業・総監役 抄紙会社創立(後に王子製紙会社・取締役会長)		国立銀行条例公布 地租改正条例公布
1875	明治8	35	商法講習所(現在の一橋大学)創立		
1876	明治9	36	東京会議所会頭 東京府養育院事務長 (現在の(地独)東京都健康長寿医療センター)		
1877	明治10	37			西南戦争
1878	明治11	38	東京商法会議所創立・会頭(後に東京商業会議所・会頭)		
1879	明治12	39	グラント将軍歓迎会(東京接待委員長)		
1880	明治13	40	博愛社社員(後に日本赤十字社・常議員)		
1881	明治14	41			日本鉄道会社設立(日本初の私鉄)
1882	明治15	42	ちよ夫人死去		日本銀行営業開始
1883	明治16	43	大阪紡績会社工場落成・発起人(後に相談役) 伊藤兼子と再婚		日本鉄道会社 上野-熊谷開通
1884	明治17	44	日本鉄道会社理事委員(後に取締役) 日本郵船会社創立(後に取締役)		日本鉄道会社 上野-高崎間開業 内閣制度制定
1885	明治18	45	東京養育院院長 東京瓦斯会社創立(創立委員長、後に取締役会長) 「竜門社」創立(現在の渋沢栄一記念財団)		
1886	明治19	46	東京電灯会社設立(後に委員)	臨時建築局設置(総裁 井上馨) ◆臨時建築局顧問ベックマンら、粘土探掘地調査のため東京近辺を巡検 政府、ベックマンの提言により建築技師3名、職人17名をドイツへ派遣	
1887	明治20	47	日本煉瓦製造会社創立・発起人(後に取締役会長) 帝国ホテル創立・発起人総代(後に取締役会長)	◆煉瓦技師ドイツ人ナスチエンテス・チーゼ来日 ◆チーゼ、隅田川沿い、上敷免村・明戸村など14か村の土質を調査する ◆ 日本煉瓦製造会社設立 ◆この頃、事務所が竣工	
1888	明治21	48	札幌麦酒会社創立・発起人総代(後に取締役会長) 東京女学館開校・会計監督(後に館長)	◆機械類横浜港到着 ◆組立師エルンスト・エーメ来日 ◆ホフマン式輪窯第一号窯完成 ◆臨時建築局より煉瓦22万個を初受注	
1889	明治22	49	東京石川島造船所創立・委員(後に取締役会長)	◆ 上敷免工場完成(ホフマン式輪窯三基) ※わが国初の機械抜き煉瓦製造工場 ◆原土探掘所と工場を結ぶ鉄軌条(トロック・レール)敷設 ◆利根川の大洪水で工場冠水し数日間休業	大日本帝国憲法公布 東海道線 新橋-神戸間全通
1890	明治23	50	貴族院議員に任ぜられる	臨時建築局廃止 ◆確氷峠鉄道工事用煉瓦500万個を受注 ◆確氷峠鉄道工事用煉瓦750万個を追加受注	第一回帝国議会 日本鉄道会社 上野-青森間全通 濃尾地震
1891	明治24	51			
1892	明治25	52			
1893	明治26	53		◆社名を日本煉瓦製造株式会社と変更	
1894	明治27	54			日清戦争勃発
1895	明治28	55	妹のていが、中の家を建て直す(明治25年火事)	◆深谷~上敷免間鉄道敷設、備前架鉄橋など竣工	
1896	明治29	56			
1897	明治30	57	滋澤倉庫部開業(後に滋澤倉庫会社・発起人)	◆第四号ホフマン輪窯完成	
1898	明治31	58		◆大洪水により数日間休業	
1899	明治32	59			
1900	明治33	60	日本興業銀行設立委員 男爵を授けられる		
1901	明治34	61	日本女子大学校開校・会計監督(後に校長)	◆第四号窯の上屋にコール式乾燥室を設置	八幡製鉄所操業開始
1902	明治35	62	兼子夫人同伴で欧米視察。ルーズベルト大統領と会見	◆『煉瓦要説』(諸井恒平著)発刊	日英同盟協定調印
1903	明治36	63			

西暦	和暦	年齢	渋沢栄一の足跡	日本煉瓦製造会社と煉瓦産業の歴史 ◆：日本煉瓦製造会社のできごと	世の中のできごと
1904	明治37	64			日露戦争勃発
1905	明治38	65			
1906	明治39	66	東京電力会社創立・取締役	◆第五号窯（ヘッドリッチ式表構煉瓦焼窯）完成 ◆電灯線を引込み、蒸気式原動機を電動機に替える ◆変電室竣工	鉄道国有法公布
1907	明治40	67	八基小学校（深谷市下手計）にて講演 帝国劇場会社創立・創立委員長（後に取締役会長）	◆第六号ボフマン窯完成	恐慌、株式暴落
1908	明治41	68	中央慈善協会（現在の全国福祉協議会）設立・会長		
1909	明治42	69	多くの企業・団体の役員を辞任 渡米実業団を組織し団長として渡米。タフト大統領と会見	◆渋沢栄一、会長を辞任	東京山の手線電車一部開通
1910	明治43	70			日韓併合
1911	明治44	71	勲一等に叙し瑞宝章を授与される ニューヨーク日本協会協賛会創立・名誉委員長		
1912	明治45/大正1	72			
1913	大正2	73	日本結核予防協会創立・副会頭（後に会頭）		
1914	大正3	74	日中経済界の提携のため中国訪問		第一次世界大戦勃発
1915	大正4	75	パナマ運河開通博覧会のため渡米 ウィルソン大統領と会見		
1916	大正5	76	実業界を引退 日米関係委員会が発足・常務委員 諏訪神社（深谷市血洗島）に拝殿を寄進、落成 『論語と舞臺』を刊行		
1917	大正6	77	日米協会創立・名誉副会長		
1918	大正7	78	渋沢栄一著『徳川慶喜公伝』（電門社）刊行		
1919	大正8	79		煉瓦生産高、史上最高記録（5億4000万個）	
1920	大正9	80	国際連盟協会創立・会長 子爵を授けられる		株式暴落（戦後恐慌）
1921	大正10	81	排日問題善後策を講ずるため渡米 ハーディング大統領と会見		
1922	大正11	82			
1923	大正12	83	大震災善後会創立・副会長	◆関東大震災により日本橋の本社社屋焼失、上敷免工場の煙突倒壊	関東大震災
1924	大正13	84	日仏会館開館・理事長 東京女子館・館長（1888年開校）	日本標準規格八号をもって煉瓦の規格公布 煉瓦需要激減	
1925	大正14	85			NHKラジオ放送開始
1926	大正15/昭和1	86	日本太平洋問題調査会創立・評議員会長 日本放送協会創立・顧問		
1927	昭和2	87	日本国際児童親善会創立・会長 日米親善人形歓迎会を主催		金融恐慌 東京地下鉄 上野-浅草間開通
1928	昭和3	88	日本女子高等商業学校発起人（現在の嘉悦大学）		
1929	昭和4	89			世界大恐慌はじまる
1930	昭和5	90			
1931	昭和6	91	11月11日永眠		満州事変
1932	昭和7				
1933	昭和8			◆上敷免工場二号窯、三号窯老朽化のため廃棄	日本、国際連盟脱退
1934	昭和9				
1935	昭和10				
1936	昭和11				二・二六事件
1937	昭和12				盧溝橋事件（日中戦争開始）
1938	昭和13				国家総動員法公布
1939	昭和14				第二次世界大戦勃発
1940	昭和15			◆上敷免工場操業短縮（戦時体制の強化、燃料、労働力などの不足による）	
1941	昭和16				太平洋戦争勃発
1942	昭和17				
1943	昭和18			◆上敷免工場内県道東側の敷地と建物および専用鉄道線とその敷地を 東京陸軍第二造兵廠に接収される	
1944	昭和19			◆上敷免工場、東京陸軍第二造兵廠共同協力工場に指定	
1945	昭和20			◆セメント瓦の製造に着手	ポツダム宣言発表
1946	昭和21				日本国憲法公布
1947	昭和22			◆進駐軍向け煉瓦出荷開始	労働基準法公布
1948	昭和23				
1949	昭和24				為替レート設定（1ドル360円）
1950	昭和25				朝鮮戦争勃発
1951	昭和26			普通煉瓦および空洞煉瓦についてJIS規格制定	サンフランシスコ講和条約締結 日米安全保障条約調印
1952	昭和27				
1953	昭和28				NHKテレビ放送開始
1954	昭和29				
1955	昭和30				
1956	昭和31				日本、国際連合に加盟
1957	昭和32			赤煉瓦製造満100年 赤煉瓦需要（2億6200万個）戦後最高を記録し以後下り坂となる	
1958	昭和33			◆上敷免、潮止南工場各一基操業休止（経済不況により煉瓦需要減少）	
1959	昭和34				
1960	昭和35				池田内閣、国民所得倍増計画発表
1961	昭和36			◆上敷免工場四号窯改修	
1962	昭和37			鉄鋼の需要減退し煉瓦市況低調 ◆秩父セメント熊谷工場建設用赤煉瓦出荷	
1963	昭和38				
1964	昭和39				東海道新幹線開業
1965	昭和40				
1966	昭和41				
1967	昭和42				

西暦	和暦	年齢	渋沢栄一の足跡	日本煉瓦製造会社と煉瓦産業の歴史 ◆：日本煉瓦製造会社のできごと	世の中のできごと
1968	昭和43			◆ホフマン輪窯六号窯停止	
1969	昭和44				東名高速道路全通
1970	昭和45				日本万国博覧会開催（大阪）
1971	昭和46				
1972	昭和47			◆専用鉄道休止	沖縄諸島本土復帰
1973	昭和48				円、変動相場制に移行 第1次オイルショック
1974	昭和49			園芸ブーム（赤煉瓦再認識の機運）	
1975	昭和50			◆専用鉄道全線廃止	
1976	昭和51			◆専用鉄道敷地売却開始	
1977	昭和52				
1978	昭和53			◆上敷免工場四号窯を取り壊し新工場建設（化粧用煉瓦に対応） ◆木造洋館（旧工場事務所）を煉瓦史料館に整備して公開 ◆六号ホフマン輪窯、深谷市有形文化財に指定 ◆上敷免旧工場敷地および工場設備売却	新東京国際空港（成田）開港
1979	昭和54				
1980	昭和55			◆「ホフマン輪窯六号窯」「木造洋館」「所蔵資料」が 埼玉県有形文化財に指定	イラン・イラク戦争勃発
1981	昭和56				
1982	昭和57		渋沢史料館開館		
1983	昭和58			◆旧専用鉄道内「唐沢川鉄橋」「福川鉄橋および遊濠鉄橋」「備前渠鉄橋」を 深谷市へ寄付	
1984	昭和59				
1985	昭和60				
1986	昭和61			◆「福川鉄橋」が深谷市有形文化財に指定	
1987	昭和62				
1988	昭和63				
1989	昭和64/平成1				
1990	平成2			◆『日本煉瓦100年史』刊行	
1991	平成3				
1992	平成4				
1993	平成5				
1994	平成6				
1995	平成7				
1996	平成8				阪神淡路大震災
1997	平成9			◆「ホフマン輪窯六号窯」「旧事務所」「旧変電室」「備前渠鉄橋」 重要文化財に指定	
1998	平成10				
1999	平成11				
2000	平成12				
2001	平成13				アメリカ同時多発テロ
2002	平成14				
2003	平成15				
2004	平成16				新潟県中越地震
2005	平成17				
2006	平成18			◆自主廃業	
2007	平成19			◆「ホフマン輪窯六号窯」「旧事務所」「旧変電室」を 深谷市に寄贈、経産省の近代化産業遺産に認定	
2008	平成20				
2009	平成21				
2010	平成22				
2011	平成23				東日本大震災
2012	平成24				
2013	平成25				
2014	平成26				
2015	平成27				
2016	平成28				
2017	平成29				熊本地震
2018	平成30				
2019	平成31/令和1			◆「旧日本煉瓦製造株式会社関係資料」が埼玉県指定文化財に指定	中国で最初の新型コロナウイルス感染者確認
2020	令和2				
2021	令和3				東京2020オリンピック ・パラリンピック開催
2022	令和4				ロシアによるウクライナ侵襲
2023	令和5				
2024	令和6			◆ホフマン輪窯見学再開（予定）	

4) 改修の背景

それぞれの建造物が建設から100年以上経過し破損が進行していますが、これまで根本的な修理には至っていませんでした。深谷市では、市内の渋沢栄一関連史跡との包括的な整備活用を見据え、2015（平成27）年、煉瓦製造施設の文化財的な価値に基づいた保存活用計画を策定しました。これに基づき、2019（平成31）年2月より6号窯の保存修理工事を開始、2024（令和6年）年度中の完了と一般公開を目指しています。

本施設における展示活動の位置づけとしては、旧煉瓦製造施設の産業遺産としての魅力を発信するだけでなく、深谷市内外からの集客を見据えた展示公開施設として整備します。また、新たに活用棟を設置し、既存施設を含めた周辺地域一体での情報発信を見据えるとともに、この日本煉瓦の歴史を語る上で欠かすことのできない、深谷市出身であり日本煉瓦の設立者である渋沢栄一の功績について「渋沢栄一記念館」と共に語り継ぐ施設とします。

(2) 施設計画

1) 施設コンセプト

「深谷＝煉瓦」のシンボル、文化学習・観光の拠点へ

「煉瓦のつながり」を活かした市内・広域観光の拠点に

深谷市では、日本煉瓦の設立者である渋沢栄一誕生の地であることや旧煉瓦製造施設の存在から、1995（平成7）年に「深谷市レンガのまちづくり条例」を制定。近代の歴史文化を市全体で体感できる「レンガを活かしたまちづくり」を推進してきました。また、全国でも上位の生産を誇る農産物など、深谷の特産品や「ふかや花園プレミアム・アウトレット」等の地域の多様な魅力が存在することから、こうした深谷市の多面的な魅力と本施設が連携した展示や情報発信を行うことにより、市内観光の拠点として周遊を活性化させることを目指します。

また、市内近隣だけでなく深谷の煉瓦が使用された全国の建築とも連携することで広域での集客・周遊にもつなげます。

「重要文化財の特徴」を活かしたここだけの体験や発見がある場に

旧煉瓦製造施設は常に人気のコンテンツである「明治近代化」の礎を築いた重要文化財であり、明治～大正期における社会全体に漂うエネルギッシュさ、ものづくりにかける熱量を実感できる貴重な体験と発見の場となることが期待されます。特にホフマン輪窯6号窯の復元と展示整備によって、非日常的な内部空間を活用した当時の煉瓦造りの工程や働く人々の情景をリアリティを持って感じられる「ここだけ」の特別な体験を提供します。

子どもたちから大人まで、歴史を生の体験として享受できる学習体験の場に

大人はもとより、学校の社会見学用施設として機能する展示内容を盛り込みます。教科書で写真を眺めるだけにとどまらず、実際の煉瓦製造の跡地としての息吹を現地で感じ、当時の様子をありありと想像できる展示整備を行うことで、質の高い学習体験を提供します。

「レンガのまち深谷」に向けたブランディングを牽引する施設に

6号窯を筆頭に、市内の煉瓦関連の文化財を継承する象徴的な場となるとともに、それらの価値を継続的に発信する機能を強化します。これを通じて、日本の近代化に大きな影響を与え、貢献した歴史あるまちとしてのイメージを国内外へ広くアピールするとともに、市内の子どもから大人まで市民の煉瓦に対する深い愛着と誇りを醸成します。

2) 施設機能

施設コンセプトを実現するため、本施設に求められる機能を以下のように整理します。

a) 展示解説機能

6号窯における焼成室内部の見学ルートでは、長大な煉瓦窯のスケールやひとつながりとなっている焼成室内部の奥行を体感してもらうとともに、実際にその場で煉瓦造りが行われていたことを実感させる痕跡や道具類（実際に使われていた工具やトロッコ等）を活用した展示解説によって、その場で働いていた人の息遣いや煉瓦造りの工程をより一層の臨場感を持って伝えることとします。焼成室内部における具体的な解説に関しては、旧事務所（煉瓦

史料館)との役割分担によって文字情報による訴求を可能な限り減らし、直感的・体感的な理解を促すよう配慮します。

また、屋外散策時による構成建造物の解説に関しては、サイン計画によって設置箇所ごとの現在の様子と建造物の変遷を結びつけて紹介し、工場稼働時代の状況がイメージしやすくなるよう工夫します。

b) ガイダンス機能

本施設におけるガイダンス機能には、2つの性質のものが想定されます。

- ① まず初めに本施設自体のガイダンス機能であり、施設の概要や構成建造物の位置関係、展示コース等を紹介するとともに、展示全体の導入プロローグとしての役割を果たすものです。
- ② もうひとつのガイダンス機能が、深谷市内に残る他の煉瓦関連施設や渋沢栄一関連施設、その他多彩な地域観光資源を紹介し、周遊を促すための地域観光のゲートウェイとしての機能です。

また、① ②に付随して、社会見学など団体来館時に対応できる待ち合い・荷物整理が行えるスペースや、総合インフォメーション、トイレ(ユニバーサルデザイン)、といった利便機能が必要となることが想定されます。

c) 飲食機能

本施設の一部に飲食スペースを整備し、記憶に残る食体験を提供します。歴史情緒を感じる特別な空間で深谷ならではの地場産品を使ったメニューを楽しめるなど、施設利用者の飲食ニーズに応えるだけでなく、周辺観光における目的地のひとつにも加えてもらえるような飲食機能を検討します。

d) 収蔵保管機能

今回の展示整備や今後の展示更新に伴い展示物が増え、新たな収蔵保管スペースが必要となることが想定されます。

e) 事務所機能

施設の管理運営を行うスタッフが常駐する場所です。デスクや倉庫、会議室、トイレ、給湯室、無線LANなどの一般的なオフィス環境を想定しています。

f) ユニバーサルデザイン

高齢者や障がい者、外国人等の利用を想定し、色彩計画、多言語対応、バリアフリーなど展示設計においては極力ユニバーサルデザインを採用します。

g) 感染症対策

感染症対策の一環として、各施設の出入り口には体温測定器や消毒液の設置を検討するほか、各展示物においても非接触での操作や体験人数の超過による密な状況を避けた展示手法を採用します。

3) 施設計画

「2) 施設機能」で定めた各機能について、以下の施設へ割り振りを行います。f) ユニバーサルデザイン、g) 感染症対策に関しては施設全体での対応とします。

a) 活用棟

新たに新築する活用棟については、本施設全体のガイダンスや導入プロローグの役割を果たすとともに、深谷エリアの周遊を促すゲートウェイとしての側面も持ちます。また、来場者への案内、待ち合い、トイレ、お土産販売などの機能に加え、管理運営スタッフのオフィス、飲食機能のうちの厨房スペースなどバックヤードにあたる空間を想定します。

b) 6号窯

6号窯においては、実際に焼成を行っていた内部空間を活かし、デジタル技術等も活用しながらホフマン輪窯の全体構造や煉瓦製造の方法、製造当時などの情景を偲ばせる展示解説を行います。加えて、飲食機能のうち客席スペースを輪窯の内部とすることで、他では味わえない非日常空間での特別感のある飲食体験を提供します。

[現在の保存状況] ※保存活用計画より

① 煉瓦造輪窯の破損

煉瓦造輪窯は建設（1907[明治40]年）から100年以上、操業停止（1968[昭和43]年）から50年以上が経過しており、煉瓦の劣化が顕著である。主な破損は、

- ・煉瓦の脱落、欠失 ・煉瓦壁の亀裂
- ・目地の欠失 ・塩類風化

であり、輪窯内外に渡っている。焼成時に内部が1000℃以上の高温となるため、内部煉瓦積の目地材は砂系のものが用いられており、通常のセメント系目地材に比べて流出しやすい。各焼成室の仕切りとなるドロップアーチはヴォールト天井及び壁面を構成するアーチと一体的に積まれておらず、接合部での煉瓦脱落や煉瓦裏に充填された砂の流出を生じやすくしている。操業時には適宜メンテナンスが施されていたはずだが、操業停止後はそうした手も掛けられておらず、破損の要因となっている。

また写真史料からは、多少煉瓦積の形状が崩れていても、生産機能や作業に支障がなければその状態で利用していた様子も分かり、窯として見た場合に破損状態の捉え方が非常に難しいことも特徴である。その他の破損としては、

- ・投炭口蓋の発錆と欠失 ・ダンパーの破損、欠失、発錆
- ・窯上部、覆屋基礎煉瓦の破損 ・出入口煉瓦積アーチの崩落（1か所）

が挙げられる。

② 木造覆屋の破損

木造覆屋は1978[昭和53]年、ホフマン輪窯4号窯の解体、新トンネル窯（トンネル窯②）の建設等に合わせて、縮小工事が行われている。平面規模は煉瓦造輪窯に一番近い柱筋まで縮小（梁間桁行とも約5m）され、2階、3階軸組は解体され、解体した材を転用して現在の小屋組が設けられている。屋根は波形鉄板が葺かれ、外壁は現存軸組部とは別にコンクリート布基礎が回され、木下地を組み波形鉄板で塞がれている。経年による破損に加えて、この時期の縮小工事が応急的な性格であったことも現在の破損の要因となっていると考えられる。

主な破損は、

- ・木部の蟻害、腐朽・軸部の傾斜
- ・転用材による小屋組の姑息的な仕事・後補外壁RC基礎の亀裂
- ・後補外壁木下地の腐朽

が挙げられる。蟻害、腐朽はもとの覆屋軸部および後補の外壁木下地ともに広く見られる破損である。また、覆屋柱は全体に傾斜が見られ、脱落倒壊したものや煉瓦基礎から浮き上がっているものが見受けられる。屋根波形鉄板は転用材による母屋に釘止めされているが、強風時などには剥がれやすい状況である。

③ RC造煙突の破損

目視では、目立った破損は見られない。平成27-28年度に実施した調査工事において、詳細な破損状況の確認を行った。

c) 旧事務所

基本的には現在の煉瓦史料館の展示解説を継続し、必要に応じて活用棟や6号窯での新たな展示解説との整合性を図るための更新や入れ替え等を検討します。また、今後も展示品の収蔵保管機能を担います。

[現在の保存状況] ※保存活用計画より

旧事務所は国の重要文化財指定（1997[平成9]年）以前に部分修理や改修がなされており、外観上の破損は少なく見えるが、床下や小屋組の状態から、軸部全体にゆるみが生じているのが確認できる。現在位置に移るまで3度の移築（曳家）が行われていることも一因と考えられる。主な破損としては、

- ・外壁塗装、塗膜の剥落・室内漆喰天井の垂下
 - ・室内漆喰壁の亀裂・土台の蟻害
 - ・床束（転用材）と大引きのゆるみ・小屋組トラス斜材の脱落
- が挙げられる。

d) 旧変電室、備前渠鉄橋

屋外からの建造物外観の見学のため、それぞれの施設の役割や煉瓦製造が行われていた当時の情景を偲ぶことができるサイン等による解説が想定されます。

[現在の保存状況] ※保存活用計画より

(旧変電室)

屋根のコロニアルスレート葺に苔が発生しているが、内部での雨漏り等は確認できない。外壁に汚損が見られる。

全体的に、修理の緊急性が高い破損は見られない。

[東北地方太平洋沖地震による破損と復旧]

2011[平成23]年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、煉瓦躯体に亀裂が入った。特に北西隅部の窓下端高さの亀裂では、上部煉瓦壁が外に12mmほどずれだした。この他にも各所に亀裂が入った。またこの亀裂は煉瓦躯体を貫通し、建物内部の壁漆喰塗にも亀裂を生じさせた。この被害を受け、2011[平成23]年度に国庫補助事業として建造物保存修理工事（災害復旧）を行った。

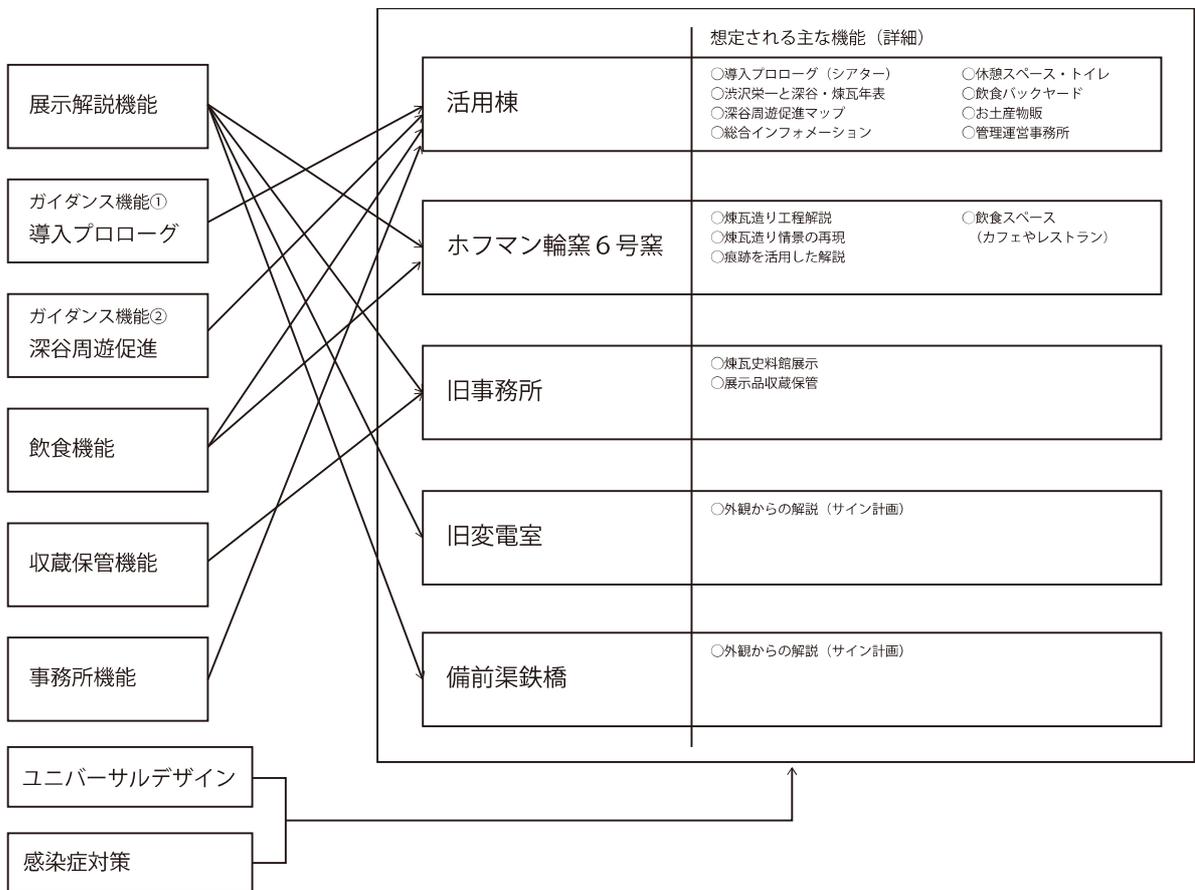
内壁漆喰塗を仕様調査ののち掻き落した。煉瓦目地の切れに内外から目地補修を行い、煉瓦の亀裂には目地位置からスラリーを注入した。補修終了後在来の工法により内壁漆喰塗の塗直しを行った。

(備前渠鉄橋)

備前渠鉄橋は遊歩道としての整備時の改造である鋼製手摺は発錆と腐食が見られる。手摺は鋳桁に溶接されているが、とくに溶接箇所付近での破損が目立つ。また橋台の支承受部分には雑草が茂り、雨水等が溜まりやすい状況となっている。鋳桁と橋台を緊結するアンカーボルトは4か所ともに備前渠側（内側）に折損している。床板、鋳桁、ブラケットに目立った破損は確認できない。橋台には苔などが繁茂しているが孕み等の破損は確認できない。

附属の煉瓦造単アーチ橋は、破損は改造の鋼製柵に発錆と腐食が見られるが、その他の箇所が目立った破損は確認できない。

【施設機能の整理】



(3) 展示計画

1) 展示コンセプト

活用棟・6号窯の展示計画においては、全体の展示ストーリーや体験のあり方を方向付ける「展示コンセプト」を設定します。検討にあたっては、本施設において一番の見せ場となるホフマン輪窯の実際に焼成が行われていた窯内部の空間体験や、渋沢栄一をはじめとする明治時代や人々の情熱やエネルギーを体感・価値ある学びとしてもらいたいこと、そして深谷市のまちと人々にさらなる活力をもたらす施設となってもらいたいことなどの意味を込められるものとなりました。

歴史を照らす 火を灯そう

明治時代、日本近代化の象徴となった煉瓦。
そんな時代の最先端、最前列で活躍した煉瓦を
焼き続けた日本一の窯が、ここ深谷にはあります。
あの時代、欧米に追い付け追い越せと走り続けた
先人の「情熱」「熱気」「熱意」の痕跡がこの窯には眠っているのです。
いま一度その火を灯し、歴史の熱を感じることができる展示とします。

[コンセプトに基づく体験の方針]

上記のコンセプトに基づく3つの「火を灯す」展示体験を提供することによって、この場での体験をきっかけに、もっと知りたくなる、関連施設にも行きたくなる「自分の心にも火を灯す」ような体験を目指します。

1. 非日常体験で火を灯す

窯そのものの非日常空間を楽しんでもらうため、展示物の作り込みによってその特徴が埋没してしまうことがないように配慮します。また、奥行きのある内部空間を極力活かし、窯そのものが持つ想像力を掻き立てる力を余すことなく伝える空間づくりをします。

2. 探検をしながら火を灯す

来館者が窯内部を探検するような参加型体験を盛り込むことで、楽しみながら好奇心に火を灯してもらえるようなエデュテイメント*体験を創造します。

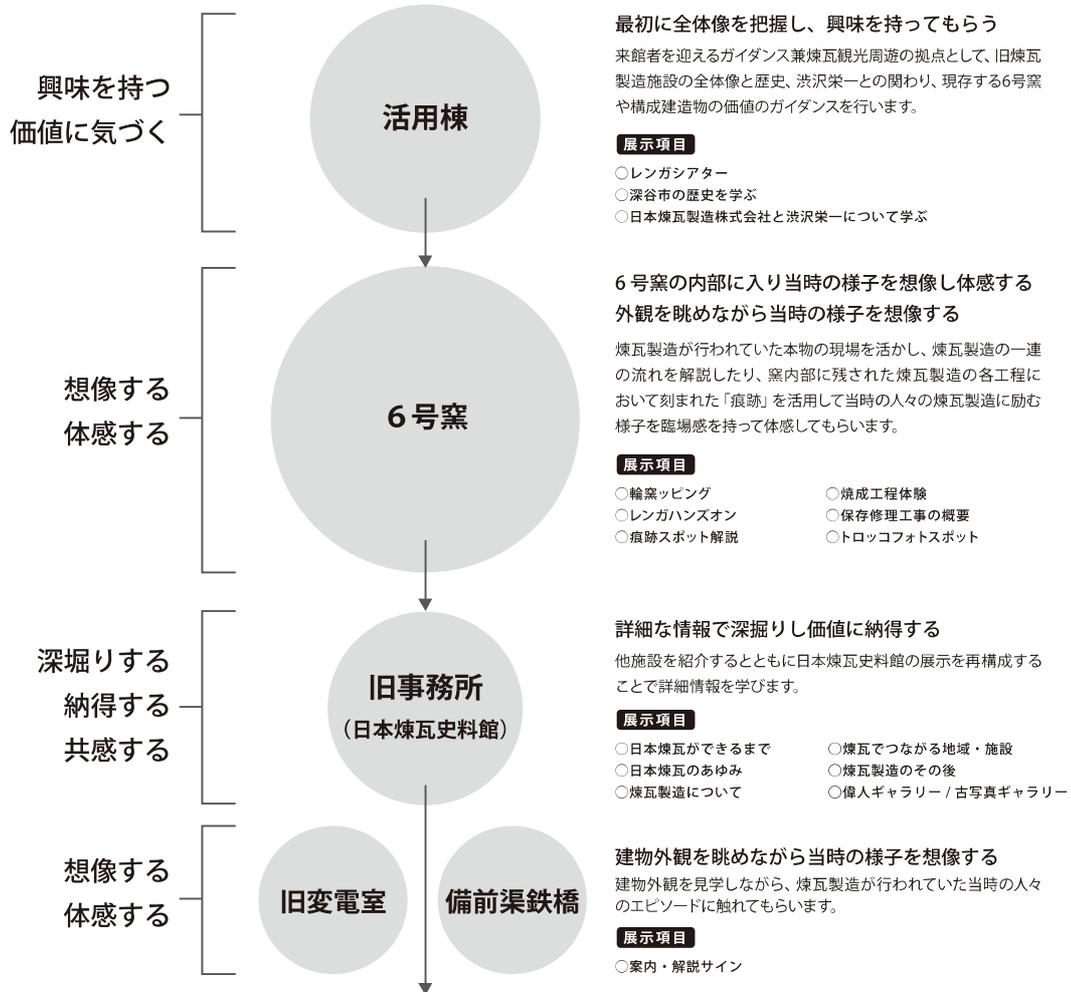
3. デジタル技術で火を灯す

丁寧に復元された窯にデジタル技術で火を灯す（当時の情景をよみがえらせる）ことで、臨場感・特別感ある体験を目指します。

*エデュテイメント：「楽しみながら学ぶこと」を目的としたマルチメディアやそのコンテンツのこと。

2) 展示ストーリー

本施設では展示計画が複数の建造物・エリアにまたがりながらも一貫したストーリーを持つことで、煉瓦製造施設が建造された経緯や渋沢栄一・深谷市との関わりの深さ、煉瓦製造の工程や製造に従事していた人々の熱情へのより深い理解や共感を促すことを目指しています。



3) 展示解説方法

a) 展示解説の基本方針

「本物」が持っているリアリティと説得力を最大限に引き出すことができる展示

本施設は日本の近代化を支えた最前線の現場であり、その建築や窯の内部などには、煉瓦製造の際についた痕跡やそこで働いていた人々の熱気などが刻み込まれています。こうした「本物」の空間が持つリアリティや説得力を最大限に引き出すため、空間の臨場感を損なうような展示パネルや文字解説などは極力行わないものとします。

映像・デジタル技術等の活用により煉瓦製造当時の施設や人々の情景が想像できる展示

基本的には空間性を損なう展示パネル等は設置しない方針ですが、その場所で行われていた煉瓦製造の様子を再現した映像を投影などすることで、製造工程をより分かりやすく紹介するなど、当時の製造に携わる人々の様子をリアリティを持って解説ができる場合には映像・デジタル技術等を積極的に活用します。

情報や体験の入り口は分かりやすく・親しみやすく、

もっと知りたい場合にはすぐに深掘りできる展示

展示解説についてはできる限り直感的かつ体感的に行うことで、煉瓦製造や渋沢栄一にそれほど興味・知識がない来館者でも楽しみながら見学できることを目指しますが、何度も訪れるリピーターや事前知識を持った来館者が求めるような深い情報の見学ニーズに関しても、煉瓦史料館との連携によって応えられるようにします。

一方的に見たり聞いたりするのではなく、

主体的な見学の動機を持つことができ、自ら探し、体感し、考える展示

展示パネルを読んだり解説員の話聞くだけの体験ばかりでなく、窯の内部空間をワクワク感・ドキドキ感を持って探索しながら自ら様々な情報を見つけることができたり、ヒントをもとに自らの考えを残すなど参加型の展示体験を積極的に取り入れます。

渋沢栄一関連施設や民間の観光型立ち寄り施設等の紹介を織り交ぜ

市域・広域周遊のきっかけを生み出す情報発信

展示解説では本施設の重要文化財としての価値にとどまらず、深谷市ならびに渋沢栄一や地元の名士たちとの関わりを伝える中で現在もその名残を辿ることができる関連施設（渋沢栄一関連施設や煉瓦関連施設）を紹介するほか、飲食や物販の場においても深谷市の多彩な魅力の発信を織り交ぜることで市内回遊を促す拠点として活用します。

非接触型デバイスや適切な体験人数の調整による感染症対策

感染症対策の一環として、操作が必要な展示については非接触を基本とし、また密な状況を生み出さないような展示手法、体験手法を検討します。

b) ゾーニングと見学動線計画

①敷地内の施設配置と見学動線の考え方

活用棟を来館時のゲートウェイとして6号窯への期待感を高め、理解を促す導入演出を行うとともに、活用棟を基点として重要文化財を構成する他施設へのスムーズな周遊を促す施設配置を行います。



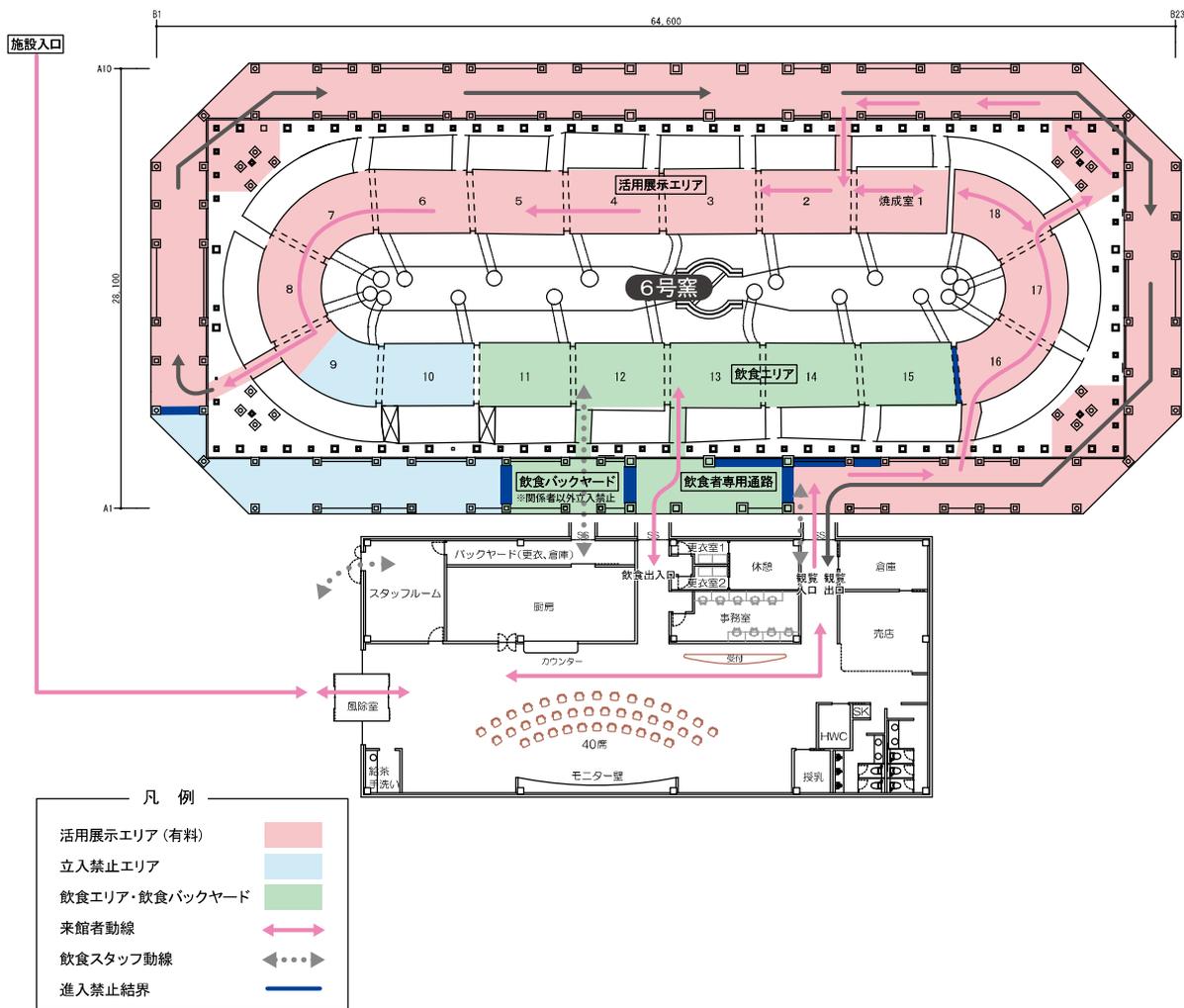
②活用棟のゾーニングと見学動線

来館者を迎えるガイダンス兼煉瓦観光周遊の拠点として、6号窯・展示体験とのつながりを考慮した機能・配置を検討します。

③6号窯のゾーニングと見学動線

窯の歴史的価値や煉瓦製造の仕組みをわかりやすく伝えるため、訴求ポイントに合わせた体験を窯の内部空間全体を活用して展開します。

【ゾーニングと見学動線図（案）】



c) 活用棟の展示解説方法

● レンガシアター

6号窯見学の期待感をつくるために、近代化を支えた深谷の熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を臨場感あふれる映像で紹介します。

- －歴史の中に入り込むような、ここでしかできない体験を提供するために、没入感・臨場感を高めるワイドスクリーンでの展開を検討します。
- －シアターは部屋として閉じないオープンスペース型とします。また、小学校や団体観光客の来場にも対応するために十分な座席スペースを確保します。

● 深谷市の歴史を学ぶ

深谷市が一体どのような歩みの中で、日本煉瓦と6号窯が生まれたのかをより深く理解するため、深谷市の通史をまとめた歴史年表グラフィックと映像の複合演出で伝えます。また、煉瓦工場が建設されたこの地域の歴史にもスポットを当てます。

- －特に近代史を厚く取り扱い、ホフマン輪窯、そしてこの6号窯の成り立ちと、渋沢栄一が深く関わる出来事については、スポット的に映像解説を組み込んでいきます。

● 日本煉瓦製造株式会社と渋沢栄一について学ぶ

人々からの注目度が高い渋沢栄一に特にスポットライトを当て、日本煉瓦設立の背景や渋沢栄一の人となり、エピソードなどをわかりやすく紹介します。

- －深谷市内近隣の渋沢栄一や煉瓦関連施設の紹介を行うことで地域周遊を促す役割も担います。

d) 6号窯の展示解説方法

● 輪窯マッピング

窯内部見学の導入として、6号窯見学の期待感をつくるために、近代化を支えた深谷の熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を臨場感あふれるマッピング投影映像で紹介します。

- －スクリーン背面から映像投影することで観覧者の視界を遮らず臨場感を生み出します。
- －工程の状況や、時間経過を表示することで、一連のフローをわかりやすく紹介します。
- －焼成室の断面をスクリーンとすることで、窯内部で何が行われていたかを映像で見せます。

● レンガハンズオン

6号窯で実際に製造されていた煉瓦（収蔵品の活用を想定）を、様々な角度から観察できるように展示台の上に設置します。

- －万全の感染症対策を前提としながら、今後の状況次第では実際に触ってもらうことができるハンズオン形式での展示手法も検討します。
- －煉瓦そのものに関する詳細な解説は日本煉瓦史料館で行っていることも紹介します。

● トロッコフォトスポット

6号窯で実際に使用されていた運搬用トロッコを設置し、フォトスポットとして活用します。

- －トロッコには煉瓦を積んで当時の情景を再現し（煉瓦は安全対策のため固定）、トロッコに手を添えているシーンを撮影できるようにします。

● 痕跡スポット解説

文化財の価値、当時の臨場感を体感いただくために窯内部に残された「痕跡」を通じて、窯の構造や煉瓦製造について知ることができる体験を提供します。

- － 窯内部の痕跡箇所に来館者の注意を惹きつけるサインや音響・映像による演出を設置。窯の内部を観察してもらいながら、その痕跡にまつわるエピソードを紹介します。
- － 痕跡の場所や形状等に応じてサインは自立型、照明内蔵型など複数のタイプを用意します。

● 焼成工程体験

4つの製造工程について臨場感を持って感じていただくために製造時の様子を映像で再現します。

- － 窯詰め、焼成、冷却、窯出しの4工程を紹介する体験とします。
- － 各工程のイメージが分かるように窯内部に部分的に情景再現することで、その工程の臨場感・当時の迫力を演出いたします。
- － 工程について解説するサイングラフィックは各工程に共通して設置し、具体的な内容を伝えます。

● 保存修理工事の概要

6号窯の保存修理工事の背景、調査から工事、完成までの概要を、時間軸に沿ったグラフィックパネル展示によってわかりやすく紹介します。また、保存修理に使用した工具や材料、煉瓦のかけらなどの実物展示も検討します。



[参考事例] INAXライブミュージアム 「窯のある広場・資料館」 保全工事の概要

● **その他（通路や飲食コーナーなどにおける演出展示）**

窯内部の通路や飲食スペースなどでは、煉瓦製造施設が稼働していた当時の深谷市での暮らしや6号窯の様子を伝える写真や資料を展示します。

－6号窯が全盛期に稼働していた頃の深谷市のまちや人々の様子を伝える写真や資料で、深谷市の歴史・文化に触れてもらいます。

－当時の6号窯で働く人や、内部の様子が分かる写真や関連資料で、当時の6号窯の情景に想いを馳せてもらいます。



[参考事例] INAXライブミュージアム

e) **旧事務所（日本煉瓦史料館）**

● **日本煉瓦の詳細情報**

日本煉瓦について活用棟や6号窯では語りきれない魅力を深掘りして紹介します。また、渋沢栄一や地元の名士たちとの関わりを伝え、市内周遊を促します。

● **最盛期の敷地全体像**

既存模型を活用して広大な土地にまたがっていたスケール感をしっかり伝えるとともに、旧変電室や備前渠鉄橋の価値を紹介することで回遊を促します。

● **煉瓦にまつわる詳細情報**

6号窯における煉瓦実物展示とも連携させ、煉瓦自体の基本情報や積み方の種類など幅広い情報を発信します。また、展示物からさらに詳細な情報を取得できるAR体験の導入等も検討していきます。

－深谷市に限らない関連施設の紹介も織り交ぜ、広域周遊を促すことも狙いとします。

f) **旧変電室/備前渠鉄橋**

● **案内・解説サイン**

旧変電室、備前渠鉄橋への誘導サインを配置することで、回遊を促します。

－サインのデザイン性を統一することで、全体の整備と統一感を出すことで巡り歩く楽しさの演出が期待できます。

－サインには誘導情報に加えて各施設の解説を盛り込むことも想定されます。

g) 体験プログラム

活用棟や6号窯、旧事務所においては、煉瓦や煉瓦製造の面白さに気づき、一層の親しみと関心を持ってもらうための体験プログラムの提供を検討します。体験用のスペースについては展示計画と併せながら常設・仮設の両面で検討を行うものとします。

【体験プログラムの例】

煉瓦片を用いた小物・アクセサリ作り

6号窯保存修復の際に出たレンガの破片などを活用し、ガラス封入などによってキーホルダーなどの小物を作成するワークショップを展開します。

五感で煉瓦まるわかり講座

本物の煉瓦を持ってみたり、水に濡らしたり、砕いてみたりしてレンガの様々な特徴について理解を深めてもらいます。

オリジナル煉瓦作り

来館の記念にオリジナルの刻印を入れた煉瓦（サイズは選べる）を作ってもらいます。土を捏ねるところから、成型、刻印までを施設で行い、焼成については地元の窯元などに依頼し、後日自宅にお届けします。

煉瓦拓本で小物作り

煉瓦の模様や刻印の拓本をとって、オリジナルのペンダントや葉などを作成し、持ち帰ってもらいます。

深谷周遊スタンプラリー

深谷市内の渋沢栄一関連施設や観光施設をめぐるスタンプラリーシートを配布。それぞれのスポットにオリジナルスタンプを設置し、深谷の見どころをたくさんめぐってもらいます。全ての施設をめぐった人には粗品のプレゼント等も検討します。

オリジナルお土産作り

ショップで小物や箱菓子を選んだ後、自分の顔を撮影ブースで撮影し、日付・メッセージを登録すると記念写真がプリントされたパッケージが完成します。

フォトスポット

渋沢栄一や煉瓦造り職人になりきって記念撮影が楽しめます。顔はめパネルやスマホアプリ等での展開を検討します。

煉瓦絵付け体験

アンティーク煉瓦に絵筆やスポイトで絵付けをしてもらいます。玄関や庭の飾りにぴったりなデザイン煉瓦が完成します。

見学ワークシート

6号窯内部の見学をより面白く、学びを深めてもらうためのワークシートを配布。クイズなども織り交ぜながら6号窯内部の見どころをわかりやすく紹介します。

※多言語への対応も検討します。

6号窯まるわかりガイドツアー

6号窯の構造や煉瓦造りを知り尽くしたガイドと一緒に窯の内部をめぐるツアープログラムです。日本煉瓦設立の背景・エピソードや、当時の煉瓦造りの苦労、ここで造られた煉瓦が使われた日本各地の建物など、様々なサイドストーリーも知ることができます。

深谷といえば！「土の教室」

深谷といえば野菜と煉瓦。どちらにも共通するのは「土」が大事ということです。深谷の魅力を支えている土の不思議について、科学の視点を交えながら解説していきます。自宅で使える肥料作りや煉瓦の成型などの体験もセットにします。

煉瓦積みチャレンジ

イギリス積み、フランス積み、コバ空間積みなど煉瓦積みの様々なバリエーションを体験できるプログラムです。ミニチュア煉瓦を使って、美しい煉瓦積みチャレンジ。完成したらスマホで記念撮影すると、まるで本物の煉瓦壁のように写ります。

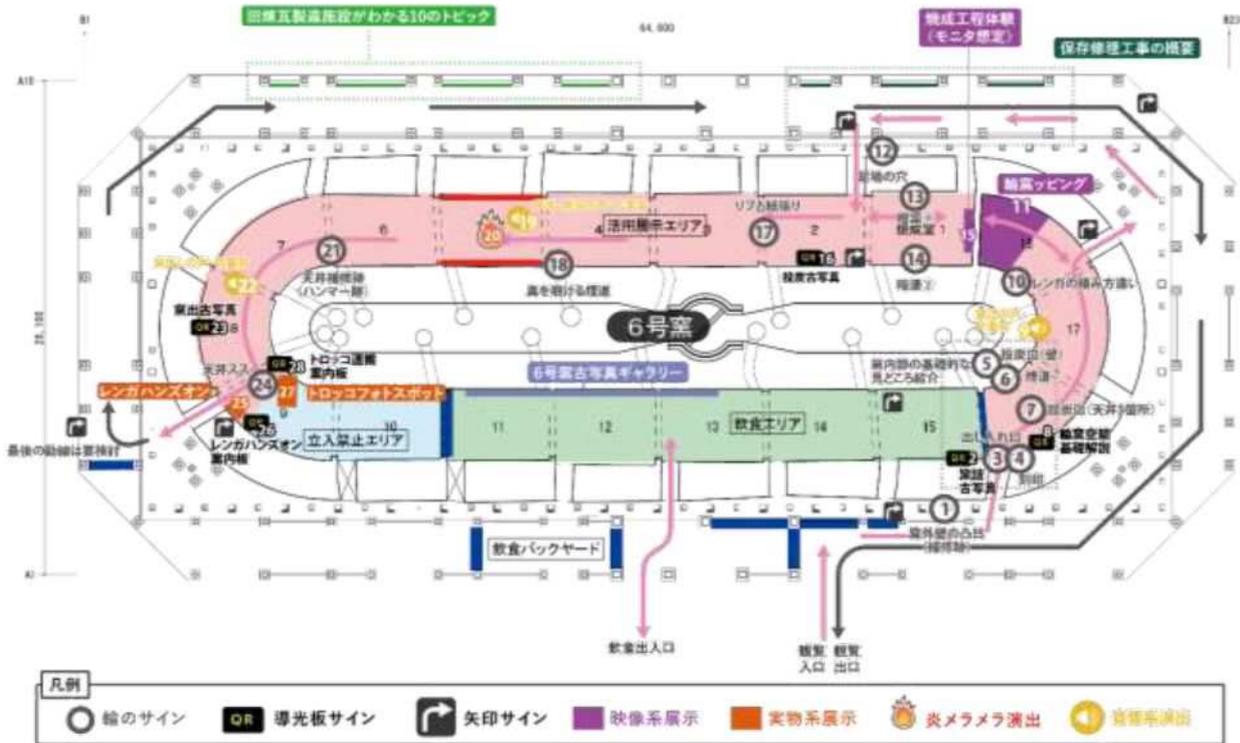
煉瓦再生ワークショップ

深谷で使われなくなった煉瓦（6号窯の保全工事の際に出た煉瓦などを活用）の周囲についた目地などをケレン（付着物を削り取る）し、新たな外壁材として再生させます。希望者は持ち帰ることも可能です。

4) 展示空間イメージ

a) 6号窯展示概要 (案)

6号窯の外構部を利用した日本煉瓦や6号窯の成り立ちや煉瓦製造のしくみといった基礎知識の解説、窯内部空間の構造や痕跡を利用した展示を下図のように設定しました。



<p>1 13時～14時 【見学ポイント】 窓外壁の補修跡</p>  <p>【見学内容】 窓外壁にある凸凹面はかつて補修工事を行った痕跡であることを紹介</p> <p>【見学ポイント】 窓外壁を背景に作業を行っている人の様子の古写真</p>	<p>2 14時～15時 【見学ポイント】 竈詰の古写真</p>  <p>【見学内容】 かつての竈詰している様子を紹介</p> <p>【見学ポイント】 竈詰の古写真と簡単な作業内容の紹介</p>	<p>3 15時～16時 【見学ポイント】 出し入れ口</p>  <p>【見学内容】 竈に差し入れしていた差し入れ口の紹介</p> <p>【見学ポイント】 竈の内部の様子</p>	<p>4 16時～17時 【見学ポイント】 レンガ割印</p>  <p>【見学内容】 レンガに付された割印の紹介 （イロハニホヘト、52などの種類があることも紹介）</p> <p>【見学ポイント】 割印の種類</p>
<p>5 17時～18時 【見学ポイント】 投炭口（壁）</p>  <p>【見学内容】 竈の壁に開けられた投炭口の紹介</p> <p>【見学ポイント】 投炭口の位置</p>	<p>6 18時～19時 【見学ポイント】 煙道</p>  <p>【見学内容】 竈の壁に開けられた煙道の紹介</p> <p>【見学ポイント】 煙道の構造</p>	<p>7 19時～20時 【見学ポイント】 投炭口（天井3箇所）</p>  <p>【見学内容】 竈の天井に開けられた投炭口の紹介。薪割は、オプマツの窓の天井に約10分間で開けられた投炭口から一定時期に差し入れます</p> <p>【見学ポイント】 投炭口の位置</p>	<p>8 20時～21時 【見学ポイント】 竈室空間の基礎解説</p>  <p>【見学内容】 竈室内部の高さ、幅、長さ、主要な目玉などを紹介する</p> <p>【見学ポイント】 竈室内部の高さ、幅、長さ、主要な目玉を紹介する説明</p>
<p>9 21時～22時 【見学ポイント】 竈詰の声・作業音</p>  <p>【見学内容】 竈詰作業をする人々の声や作業音を録音音として流す</p> <p>【見学ポイント】 録音音の再生</p>	<p>10 22時～23時 【見学ポイント】 レンガの積み方変化</p>  <p>【見学内容】 下廻り上部で異なるレンガの積み方がされていることを紹介</p> <p>【見学ポイント】 レンガの積み方</p>	<p>11 23時～24時 【見学ポイント】 薪割ッピング</p>  <p>【見学内容】 薪割機と薪割用の切り出し機と、まじもろを用いた薪割機と、薪割機、薪割機用の薪割機を紹介</p> <p>【見学ポイント】 薪割機の種類</p>	<p>12 24時～25時 【見学ポイント】 外壁の足場跡</p>  <p>【見学内容】 外壁に足場を組むために付けられた外壁の穴や痕跡を紹介</p> <p>【見学ポイント】 かつての足場を組んだ状態の古写真</p>
<p>13 25時～26時 【見学ポイント】 箱梁①</p>  <p>【見学内容】 箱梁の幅員を一歩幅の倍（約1.8m）の深さに、幅1.8m、高さ20cm程度の構造があります。この構造は、煙道の深さ下を歩行する可能性が高くなりました。箱梁は、煙道の深さ下、煙道の壁を形成することで煙気が上がってくるのを防ぐことにあると推測されますが、煙気がない状態では見えません。</p>	<p>14 26時～27時 【見学ポイント】 箱梁②</p>  <p>【見学内容】 箱梁の幅員を一歩幅の倍（約1.8m）の深さに、幅1.8m、高さ20cm程度の構造があります。この構造は、煙道の深さ下を歩行する可能性が高くなりました。箱梁は、煙道の深さ下、煙道の壁を形成することで煙気が上がってくるのを防ぐことにあると推測されますが、煙気がない状態では見えません。</p>	<p>15 27時～28時 【見学ポイント】 煖房工程体験</p>  <p>【見学内容】 煖房製造の4工程（取組み、形成、成形、乾燥）について、製造に関わる人々の動きや声とともに紹介する</p> <p>【見学ポイント】 煖房製造の様子</p>	<p>16 28時～29時 【見学ポイント】 投炭の古写真</p>  <p>【見学内容】 かつての投炭している様子を紹介</p> <p>【見学ポイント】 投炭の古写真と簡単な作業内容の紹介</p>

17 18年7月14日
リブと紙張り



解説内容
実尺版にあるおっぱりリブの継ぎ目、かつて焼成時に紙張りが行われていたことを紹介する

写真の場所
焼成場の紙張りされていた様子（イメージ）

18 18年7月14日
炭を取ける煙道



解説内容
煙道の竹筒にある煙道（煙の通り道）を覆木込んで取り除く

写真の場所
煙道の竹筒

19 18年7月14日
投炭・焼成の声・作業音



解説内容
投炭や焼成時に室内で発生していたであろう音や作業音を録音音として決す

写真の場所
投炭の様子

20 18年7月14日
美メラメラ演出



解説内容
焼成場り室内部をイメージした美メラメラ演出に対して行う

写真の場所
焼成場の室内部

21 18年7月14日
天井の掃修跡



解説内容
埋立壁が崩壊していた箇所（昭和44年以前）、空気が常に流入を促すため、土壌も腐敗し、害菌で汚染された箇所が既述していた

写真の場所
埋立壁の崩壊箇所

22 18年7月14日
窯出しの声・作業音



解説内容
窯出しの際の音や作業音を録音音として決す

写真の場所
窯出しの様子

23 18年7月14日
窯出しの古写真



解説内容
窯出ししている様子を古写真で紹介する

写真の場所
窯出ししている様子の古写真

24 18年7月14日
天井についたス



解説内容
最後の焼成時に天井についたスを紹介する

写真の場所
最後の焼成時の天井

25 18年7月14日
レンガハンズオン



解説内容
レンガの実物を紹介し、表面の質感や断面などを軸の回りくわいから観察できるように撮影している

写真の場所
レンガハンズオン

26 18年7月14日
レンガハンズオン 案内板



解説内容
レンガのハンズオンを促すとともに、素材の質感や断面仕上げなどレンガを築き入れる器具等の工機を紹介する

写真の場所
レンガハンズオン 案内板

27 18年7月14日
トロッコ運搬フォトスポット



解説内容
レンガを積んだトロッコに手を添えて記念写真を撮ることができる

写真の場所
トロッコの運搬手

28 18年7月14日
トロッコ運搬 案内板



解説内容
フォトスポットの体験を促すデザインシートのともに、かつての作業員がどのようにトロッコを牽いていたかを古写真で紹介する

写真の場所
トロッコを牽く作業員の古写真と案内板の案内

b) 展示手法について

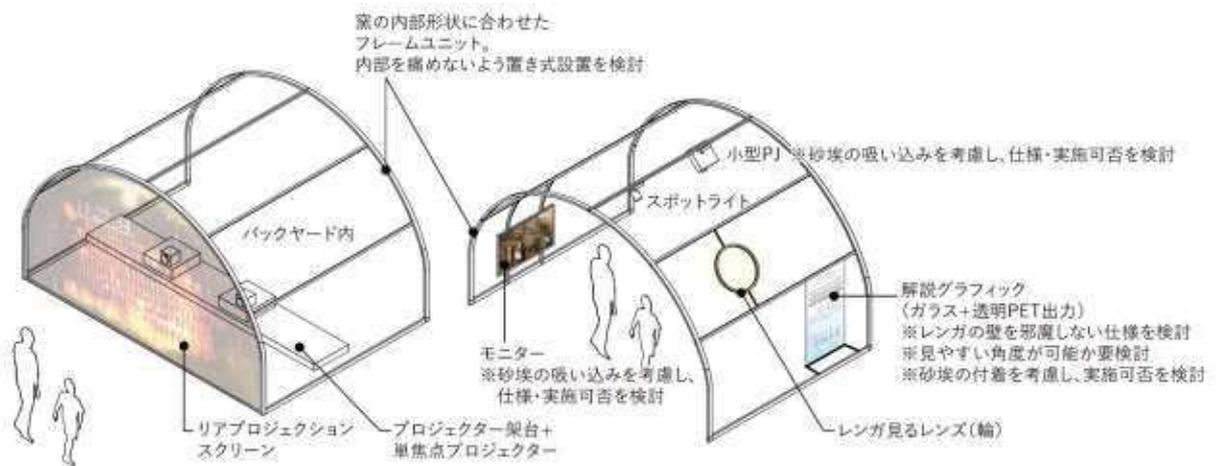
輪窯内の展示は、見学者に輪窯の特徴やどのように使われていたかを伝える役割を担います。展示にあたっては、次の点に注意し設計、制作をするものとします。

- 輪窯内は砂等の粉塵も多いため、清掃、メンテナンスがしやすい素材や形状、しくみとします。
- 重要文化財である輪窯の特徴や雰囲気を壊さないデザインとします。
- 輪窯を劣化、損傷を考慮したデザイン、素材、設置方法とします。

● 基本什器

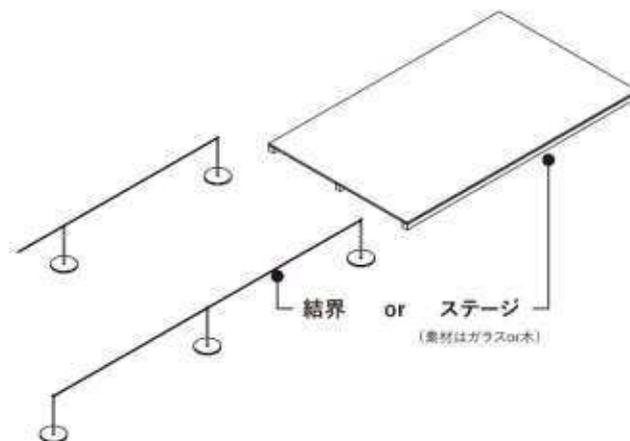
① トンネル型展示ユニット

トンネル形状に合わせたフレームの展示ユニットを各所に設置。フレーム部へプロジェクター吊り下げ&スクリーンを張ることで映像を上映したり、側面部にはグラフィックやサイネージなどをフレキシブルに展開可能とします。



② レンガ床の養生パターン

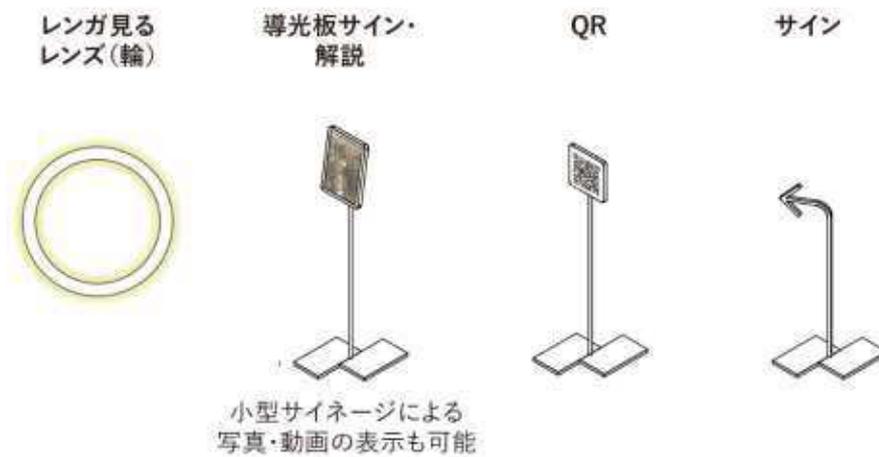
置き型の結界を設置するほか、上図ステージユニットを利用した床面を設置します。 ※ガラスの場合はレンガ床や暗渠を観察できるようになります。



● サイン、案内

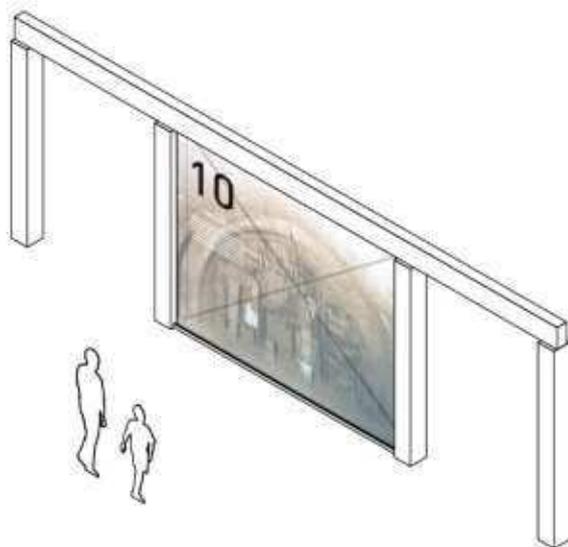
①自立型解説アイテム

窯内部のレンガや空間感に干渉せずに、必要情報を提供する自立型展示アイテムです。タブレット、サイングラフィック、QR、のぞき型など適材適所で展開します。

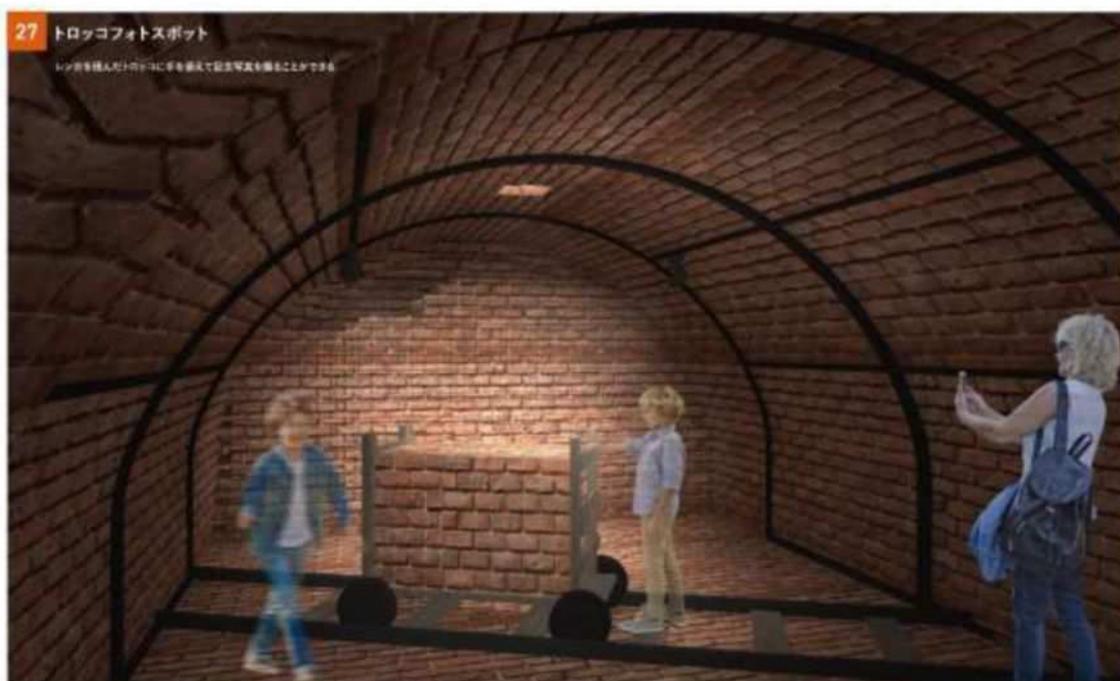


②外構部グラフィック

支柱構造体に透明板（ガラス）を固定し、解説グラフィックやフォトスポット演出を展開します。



■ 実物系展示_image



🔥 炎メラメラ演出_image

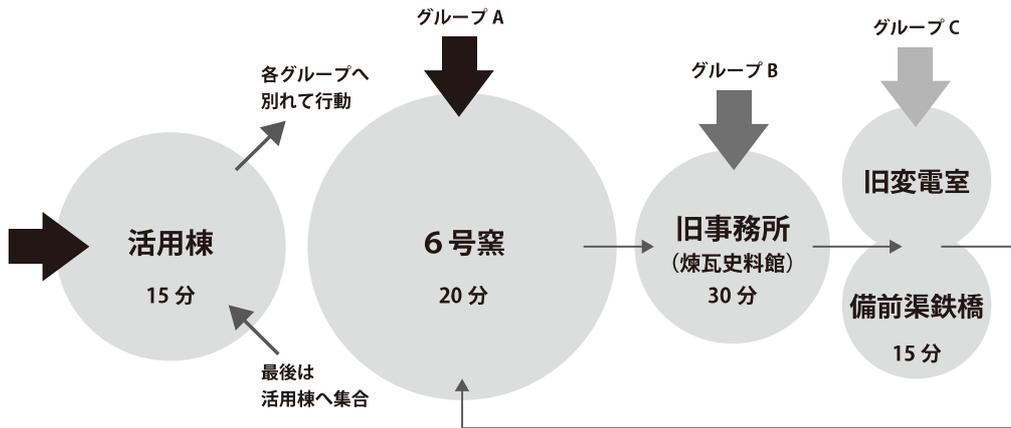


d) 見学想定時間

活用棟や6号窯を含む施設全体の見学時間としては、校外学習や視察等の団体客については順路を数グループに分けて各グループ80～90分程度のコースを設定します。また、個人客については各々の興味や関心に合わせて時間を過ごしてもらえなものとし、展示鑑賞時間は概ね60～120分程度を想定しています。

※6号窯内部をはじめ、混雑時には入場者数の上限を設定することも検討します。

団体客（80～90分）



グループA

活用棟 (15分) → 6号窯 (20分) → 旧事務所 (30分) → 旧変電室・備前渠鉄橋 (15分) → 活用棟

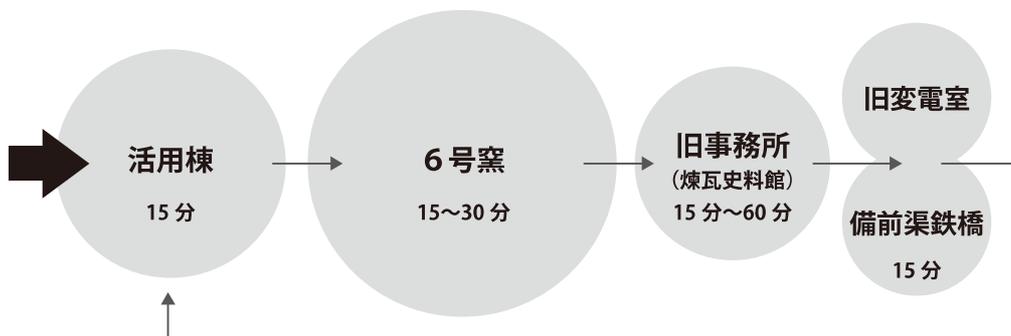
グループB

活用棟 (15分) → 旧事務所 (30分) → 旧変電室・備前渠鉄橋 (15分) → 6号窯 (20分) → 活用棟

グループC

活用棟 (15分) → 旧変電室・備前渠鉄橋 (15分) → 6号窯 (20分) → 旧事務所 (30分) → 活用棟

個人客（60～120分）



活用棟 (15分) → 6号窯 (15～30分) → 旧事務所 (15～60分) → 旧変電室・備前渠鉄橋 (15分) → 活用棟

(4) 運営計画

1) 施設活動

施設コンセプトに則り、その充実を図る活動を行います。

【施設コンセプト】

「深谷＝煉瓦」のシンボル、文化学習・観光の核となる拠点へ

- 「煉瓦のつながり」を活かした市内・広域観光の拠点に。
- 「重要文化財の特徴」を活かしたここだけの体験や発見がある場に。
- 子どもたちから大人まで、歴史を生きた体験として享受できる学習体験の場に。
- 「レンガのまち深谷」に向けたブランディングを牽引する施設に。

2) 施設活動の検討

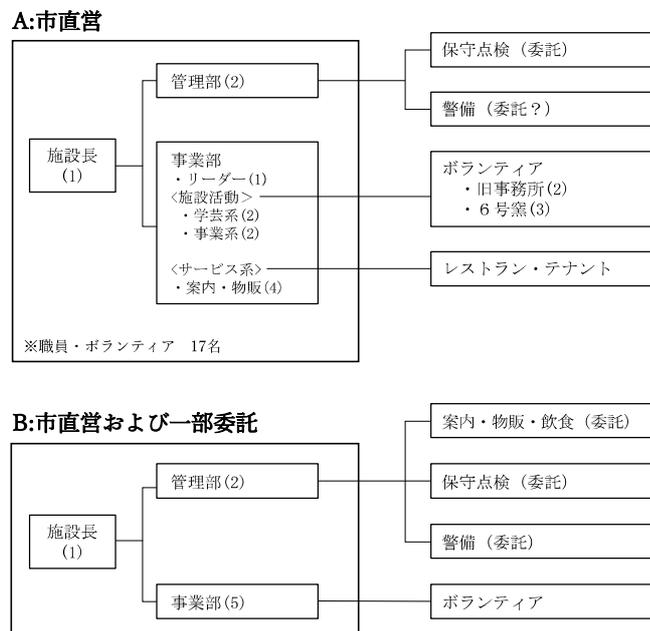
施設のコンセプトおよび施設機能（事業）より、当施設としてどのような活動をするのかを検討します。

施設事業	活動		展開場所
展示解説機能 (事業)	重要文化財建造物の公開・普及・ 展示活動	ホフマン輪窯6号窯 公開	6号窯
	(見学、資料展示、パネルや映像 解説等)	6号窯内展示	6号窯
		旧事務所内 資料展示	旧事務所
	解説活動	重要文化財建造物等 解説サイン	旧事務所、旧変電室、備 前渠鉄橋、6号窯、活用 棟
		ボランティアによる 解説ツアー	旧事務所、旧変電室、備 前渠鉄橋、6号窯、活用 棟
		講演会・学習会の実施	旧事務所
	学習支援活動	学校団体受け入れ	旧事務所、活用棟
	学校用解説シート作成	活用棟	
ガイダンス機能 (事業)	受付案内、6号窯チケット販売	施設内案内、チケット販売	活用棟
	周遊・観光サポート活動	関連施設、 市内観光スポット案内	活用棟
		周遊音声ガイド	活用棟
	当施設および関連施設ガイダンス 活動	ガイダンス映像の上映	活用棟
		関連情報 (深谷市、渋沢栄一等)	活用棟
	体験活動	各種体験プログラム	旧事務所or活用棟
	連携活動	煉瓦関連施設連携活動	旧事務所、活用棟
		市内関連施設連携活動	市内関連施設、市内観光 施設
		市内観光施設連携活動	活用棟

施設事業	活動		展開場所
サービス機能 (事業)	物販活動	グッズ開発	活用棟
		ショップ運営	活用棟
	飲食活動	カフェ・レストラン運営	6号窯
		休憩・施設堪能活動	休憩スペース
		休憩兼建物鑑賞エリア	活用棟外、旧事務所外、敷地内各所
		自動販売機設営	活用棟
		付帯設備	活用棟
収蔵保管機能 (事業)	国指定重要文化財 建造物の保存・継承活動 関連資料の収蔵・保管活動（ホフマン輪窯、旧煉瓦製造施設、煉瓦に関する資料）		旧事務所
	※関連資料の調査・収集活動		
事務所機能	施設維持管理		活用棟
	人員管理		活用棟
	庶務等事務作業（出納含む）		活用棟

3) 運営体制(案)

現状の運営を踏襲しつつ、施設目標や活動を実施するための新たな組織や体制を検討します。



4) 施設運営形態 (案)

■開館時間

- 旧事務所 (煉瓦史料館) : 9:00~17:00 (入場は16:30まで)
- 旧変電室 : 旧事務所に準ずる。
- ホフマン輪窯 6号窯 : 内部見学9:00~17:00 (入場は16:30まで)
※飲食スペースは別途検討
- 活用棟 : 9:00~17:00 (入場は16:30まで)
※飲食関連部分は別途検討
- 備前渠鉄橋・煉瓦造単アーチ橋 : 常時公開

■休館日

- 旧事務所 (煉瓦史料館) : 毎週1回、年末年始
- 旧変電室 : 旧事務所に準ずる。
- ホフマン輪窯 6号窯 : 毎週1回、年末年始
- 活用棟 : 毎週1回、年末年始
- 備前渠鉄橋・煉瓦造単アーチ橋 : なし。常時見学可能。

※関連施設の休館日

- ・ 渋沢栄一記念館 : 毎週火曜日/年末年始
- ・ 「中の家」 : 年末年始
- ・ 「尾高惇忠生家」 : 年末年始
- ・ 誠之堂・清風亭 : 年末年始

■入館料

- ・ 施設内および活用棟は無料。6号窯内の見学は有料。
- ・ 体験活動は活動により料金を定め、体験料を徴収。
- ・ 飲食、物販は商品代金を貰い受ける。

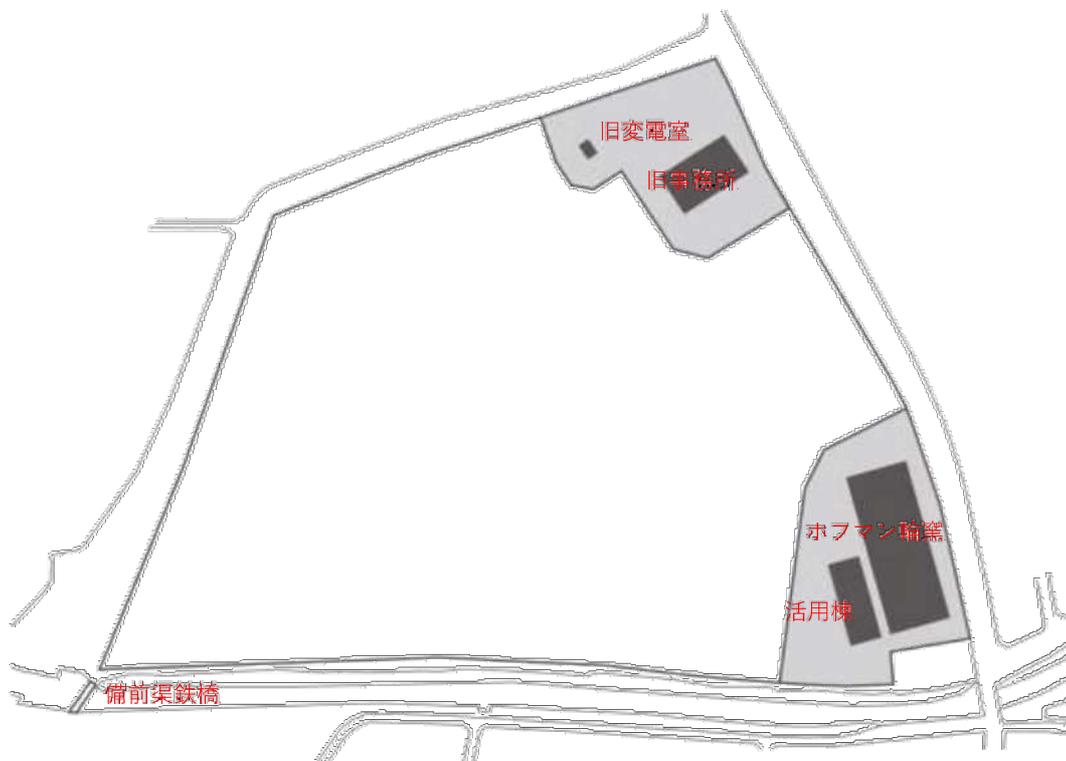
(5) 整備方針の検討

1) 施設概要

計画区域：埼玉県深谷市上敷免28-10、上敷免28-11、敷地北側および西側の市道から
備前渠鉄橋まで

敷地面積：4,500㎡

建築面積：ホフマン輪窯 6号窯	1,044.2 ㎡
旧事務所	433.6 ㎡
旧変電室	22.3 ㎡
活用棟	450～600㎡想定



2) 関連法令、敷地条件の整理

区分	制限の種類		該当項目	備考
敷地等全体	建築基準法	用途地域	市街化調整区域。用途未指定。宅地。 建ぺい率60%、容積率200%	設置条例を制定することが確実であれば都市計画上の手続きは不要。適合証明は必要。
		地域・地区	—	
		接面道路	前面道路の種類 ・ 県道275号線 ・ 幅員 (12.96m)	
6号窯等 重要文化財	重要文化財日本煉瓦製造 株式会社旧煉瓦製造施設 保存活用計画			
	文化財保護法		—	
	建築基準法による用途		歴史的建造物は建築基準法の適用除外 (建築基準法第3条第1項第1号)	外部補強材は文化財保存のための施設
	消防法による用途		消防法(17)項重要文化財建造物	
	建築指導課指導		国指定重要文化財のため、建築基準法適用外、との指導。	
消防指導		・ 消防法17項に該当。消火器、自火報が必要。 ・ 火器等禁止の注意プレートを設置		
活用棟	建築基準法による用途		展示場	
	消防法による用途		消防法(1)項 劇場、集会場	
	建築指導課指導		誘導灯、排煙等の考え方、準拠条例を確認	
	消防指導		消防法(1)項 劇場、集会場に該当	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 消火器、誘導灯、自火報、火気厳禁プレートが必要 ・ 床面積500㎡以上は屋内消火設備が必要。準耐火構造であれば1,000㎡まで不要。 ・ 厨房機器の容量が350kWを超えるとかなり大きい屋内消火設備が必要。 ・ 敷地面積が3,000㎡以上なので、40㎡級以上の防火水槽が必要 	
			活用棟と北側フェンスは1m離す	
参考) 重要文化財日本煉瓦製造 株式会社旧煉瓦製造施設 保存活用計画				

3) 平面計画・動線計画

- ホフマン輪窯（耐震改修と防火防犯壁も含めて文化財扱い）に極力近づいた位置で活用棟を配置します。
- ホフマン輪窯側の基礎を傷つけることなく施工することが前提なので、ホフマン輪窯外壁面から2m程度離れた位置が活用棟外壁面となるように配置します。
※位置の決定は、文化庁の指導を受け決定とします。

※文化庁指導

活用棟の位置が文化財および文化財を構成する一部に影響の及ばない位置と一目で判る位置とする（地下構造物も含めて図面にて検証。ひと目で影響が無い位置である事がわかる検証図を文化庁へ提出）。
図面で確認が出来、明らかに影響が無いと判れば、審査対象にもならない。

- ホフマン輪窯の耐震ブレースがない位置で活用棟との動線を確保します。
- 来館者動線2か所と厨房からレストランへのスタッフ動線1か所の計3か所で接続します。
- 防火防犯壁と同じ並び位置に防火扉（開館時は常時開放された扉）を計画し、防火と防犯の目的を持った扉となります。

a) 活用棟

- 鉄骨造（準耐火建築物以上）を想定しています。
- 文化財に隣接する展示場用途の建物として建築基準法及び消防法に則った計画とします。
 - ホフマン輪窯を見学するためのエントランスホールとガイダンスを受けられる空間を計画します。
 - ホフマン輪窯内のレストラン（食事スペース）への厨房機能を計画します。スタッフの更衣室やストックヤードも単独で管理できるように配置します。
 - 管理事務室と隣接して売店とすることで、少ないスタッフで管理できるようにします。
 - 管理側の更衣室と休憩室を事務室に隣接して計画し、売店ストックヤードを兼ねた湯沸を計画します。
 - 来館者入口と有料ゾーンとなるホフマン輪窯への入口は別のルートとなるようにします。
 - ホフマン輪窯入口のそばに深谷市の観光周遊と簡単ワークショップを兼ねたエリアを計画します。

b) 6号窯

- 文化財のため、床壁天井とも直接に設備関係を設置することができません。このため、展示工事にて鉄骨によるフレームを作り、このフレームに各種設備関係を設置します。
- 電気配線ルートは、2つの方法を検討しています。最終決定は文化庁との協議によって決定します。
 - 耐震改修工事後に計画されている分電盤位置から床の上をステンレスの角パイプを歩行の邪魔にならない位置に設置します。この角パイプを通じて展示工事で用意するフレーム内に配線できるようにします。
 - 同上の分電盤位置から2階となる床部分に配線して、2階の各開口部からホフマン輪窯内の必要な部分に配線し展示工事で用意するフレーム内に配線できるようにします。

※文化庁指導

図面が出来た段階で確認。従来どおりの位置に照明を配置が配置され、照明器具のみの変更は現状変更にはならない。窯周囲の回廊は、床に配線埋め込みは可能。

- 防災設備として想定している消火器と煙感知器は耐震補強工事前と同じ位置に戻します。そのうえで活用することで追加になる位置に消火器と煙感知器を増設します。

※文化庁指導

消防設備は、消防と協議の上決定のこと。

- 空調設備としては、ポータブルタイプのスポット冷暖房機器をレストラン部分に3台設置します。これはドレインレスタイプとし電気配線があれば設置できるものを選定します。
- 換気設備としては、ホフマン輪窯内は常に外気が入ってくる空間と考え、自然換気とします。空気清浄器の設置を検討します。
- 展示と一体となったフレームを充分に利用し、景観を壊さない什器選定や演出をすることで、ホフマン輪窯内の文化財としての価値がさらに上がり魅力ある空間とします。

c) 動線計画

- ホフマン輪窯の外周部を通過してきた来館者を活用棟のエントランスに誘導します。
ホフマン輪窯の耐震ブレースのない鉄骨柱間を抜けて活用棟に入ります。
- エントランスホールでは、大画面のモニター壁からのガイダンスを受けながら、軽食サービスが受けられる空間とします。
- 深谷市の観光周遊を兼ねたワークショップも同じ空間にあり、見通すことができます。
- 受付で入館の手続きをしたあとは、ワークショップをみながら有料ゾーンとなるホフマン輪窯の中へ導かれます。エントランスに入ってきた通路とは別の通路とし、無料エリアとは違う演出をすることでホフマン輪窯への期待感を高めます。
- 厨房は食材搬入も含めた単独のスタッフ出入口を設け、管理もしやすくします。ホフマン輪窯内レストランへのサービスルートも来館者出入口通路とは別とすることでサービスしやすく衛生面にも配慮した動線となります。
- 事務室と売店、スタッフ用更衣室休憩室と湯沸はひとつのかたまりとすることでコンパクトな管理エリアを実現します。
- 来館者がいつでも利用できるトイレと授乳室をどこからでも視認しきる位置に配置します。
- エントランスホールとワークショップ、来館者通路は壁を計画することなく一体的な空間となるようにします。

d) 立面計画

- 文化財であるホフマン輪窯の景観を損ねることのないデザインとし、特別な形としないものとします。
 - ガラス面を使うことで内部の視認性がよく開放的な空間となるようにします。
 - モニターによるガイダンスなどの妨げにはならないようにします。
- メンテナンスフリーとなるような外壁の仕上げを選定します。

e) 断面計画

- 平屋とします。天井高さは3.5m以上を確保し開放的な空間となるようにします。
- 厨房や各諸室（事務室、更衣室、トイレなど）は天井高さ2.5m～2.7mとします。
- 床はOAフロアとし高さ50mmとします。他の諸室とも段差のないフラットな床が連続することとします。このため排水の必要な厨房やトイレは躯体床が300mm程度下がります。

f) 構造計画

- 耐震性に優れた構造とします。
- 経済性に優れた構造形式を検討します。木造も含めた構造形式を検討し、経済性と環境保全に配慮した構造とします。

g) 設備計画

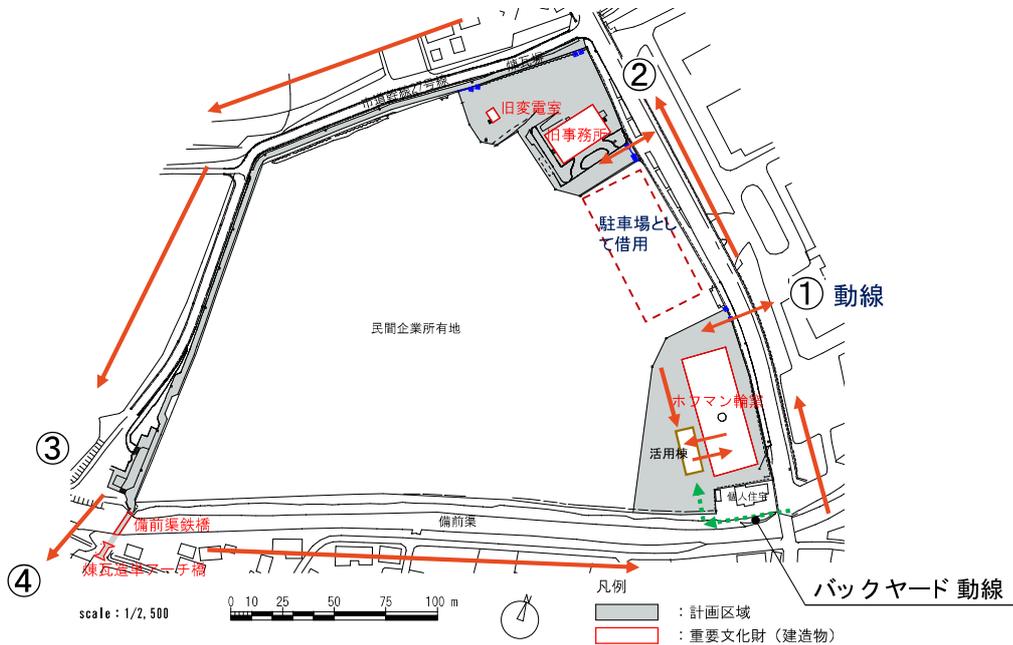
- 維持管理にかかるコスト低減を目的として機器選定とします。計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。
- 環境保全への配慮として、省エネルギーに効果のあるデザインや設備を採用します。
- 電気設備は新規敷設基本とし、景観に配慮し埋設での引込とします。※既存電柱のみ活用。
- 電位容量等は、設計時に展示、厨房と要調整のこと。
- 上下水道は新規敷設。
- レストランの衛生設備は、保健所と要相談のこと。※輪窯内には手洗い設備の設置は不可。

h) 諸室構成表と諸条件

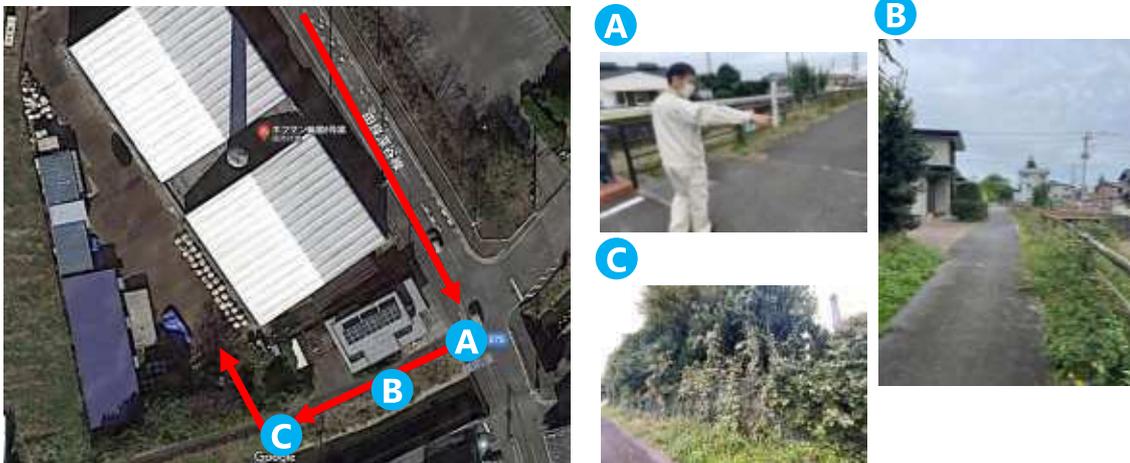
室名	機能	役割内容	収容人数	面積	必要設備	必要備品	備考
活用棟							
総合インフォメーション	ガイダンス機能②	<ul style="list-style-type: none"> チケット販売/もぎり・市内関連施設の案内・施設案内 	2~3名	-	-	-	
深谷周遊促進スペース	ガイダンス機能②						
深谷市の歴史	ガイダンス機能②						
シアタースペース	ガイダンス機能①	導入として、施設の歴史やみどころ等を映像で紹介する。	40名	検討	電気・照明設備	イス40脚	
物販スペース	ガイダンス機能②		1名		電気・照明設備	カウンター、レジ、イス	
調理スペース	飲食機能	飲食の調理と販売をする。	7名	36.3㎡	空調、電気、ガス、給排水設備	厨房、受渡カウンター、レジ	飲食形態を要検討。
管理運営事務所	事務所機能	施設管理に関わる事務全般を担う。また各運営スタッフの休憩スペースとしても活用する。	3名	検討	電話回線、LAN、電気リモコン版、サーバー※給排水設備	事務机、イス、書庫、金庫、休憩机、イス※給湯、手洗い設備は必要か	責任者1名、事務等2名。休憩室、更衣室（ロッカースペース）、応接・打合室、給湯室。
来館者休憩スペース	付帯機能	-	12名	検討	空調設備、電気設備、Wi-Fi	イス12脚、机3台	自動販売機必要か？※ワークショップ
ワークショップスペース			10名程度			イス8脚、テーブル2台、カウンター1台	
トイレ	付帯機能	-	40名(80名)	検討			バス2台を想定。1台40名、最大80名
6号窯							
公開・見学スペース	展示解説機能	煉瓦製造当時の情景を体感する場	検討	確認	空調設備、電気設備、Wi-Fi		
外廊下 展示スペース	展示解説機能		検討	確認	空調設備、電気設備、Wi-Fi		
飲食スペース	飲食機能	非日常空間の特別空間を飲食をしながら楽しんでもらう。	約50名	120㎡	空調設備、電気設備、Wi-Fi、手洗い場		
旧事務所							
煉瓦史料館展示	展示解説機能	現日本煉瓦史料館の展示解説を継続	-	-	現状設備を維持	現状設備を維持	機械設備、電気設備、給排水設備の更新は必要ないか？
展示品収蔵	収蔵保存機能		-	-	現状設備を維持	現状設備を維持	
旧変電室							
	展示解説機能	-	-	-	サイン		
備前渠鉄橋							
	展示解説機能	-	-	-	サイン		
駐車場スペース	付帯機能	大型バス 一般車	2台		サイン		6号窯敷地外隣接地

<施設見学動線、バックヤード動線>

- ①ホフマン輪窯・活用棟 → ②旧事務所（現・日本煉瓦史料館）・旧変電室 →
 ③備前渠鉄橋 → ④煉瓦造単アーチ橋 →（ホフマン輪窯・活用棟、もしくは駐車場）



バックヤード動線 現状



別紙参考資料として、以下の資料を添付

<煉瓦史料館>

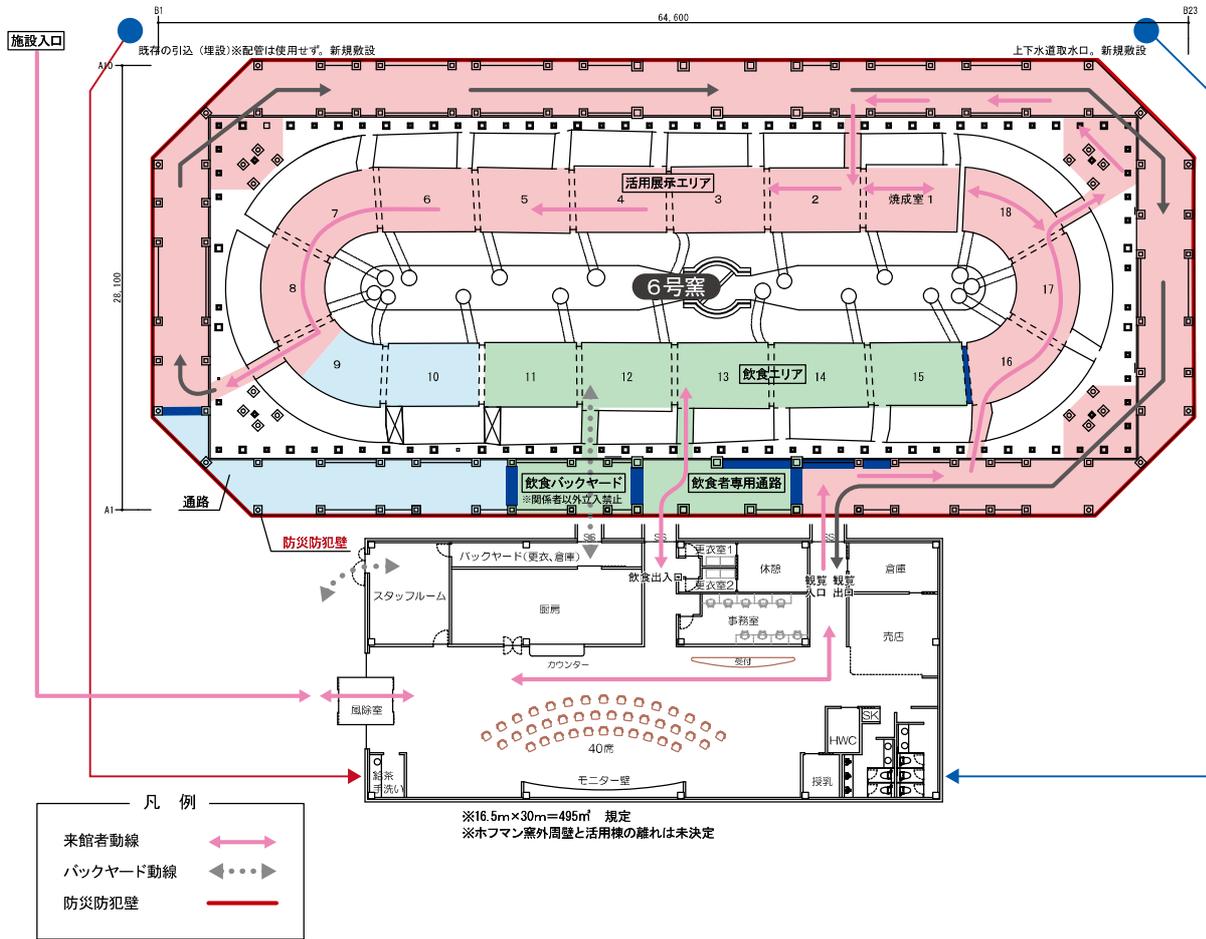
- ・給水装置工事施工図 平面図、縦断図、水栓番号
- ・電気図
- ・電気配線図

<6号窯>

- ・給水装置工事施工図 平面図、縦断図
- ・給水管図
- ・一般県道275由良・深谷線 道路図
- ・自動火災報知設備撤去図 平面図、系統図

i) 諸室構成図 (案)

諸室構成表の諸条件をもとに構成図案提示



(6) 渋沢栄一関連施設や深谷の観光資源との連携についての検討

1) 連携を検討する主な施設（候補）

深谷市内の様々な文化施設・観光関連施設などの観光資源から、特に本施設との連携が考えられる主な施設候補を以下に整理する。

[渋沢栄一ゆかりの施設]

■旧渋沢邸「中の家」



住所	埼玉県深谷市血洗島247-1
建造／オープン時期	明治28年（1895年）
開館日時	9:00-17:00（最終入場16:30） 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）
入館料	無料
運営母体	渋沢栄一記念館
概要	旧渋沢邸「中の家（なかんち）」主屋は、渋沢栄一誕生地に建ち、栄一の妹夫妻によって明治28年上棟された建物です。渋沢栄一が多忙な中で帰郷した際に滞在し、寝泊まりした場所です。渋沢家の住宅として使われていましたが、昭和60年より「学校法人青淵塾渋沢国際学園」の学校施設として使用され多くの外国人留学生が学びました。平成12年の同法人解散に伴い深谷市に帰属しました。県指定旧跡「渋沢栄一生地」、市指定史跡。

■尾高惇忠生家



住所 埼玉県深谷市下手計 2 3 6.

建造／オープン時期 江戸時代後期.

開館日時 9:00-17:00 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）.

入館料 無料.

運営母体 渋沢栄一記念館

概要 尾高惇忠は渋沢栄一の従兄であり、学問の師でもありました。明治維新後は富岡製糸場の初代場長を務めました。この生家は、江戸時代後期に惇忠の曾祖父が建てたといわれ、惇忠や栄一らが高崎城乗っ取り計画を謀議したと伝わる部屋（非公開）が二階にあります。市指定史跡。.

■渋沢栄一記念館



住所 埼玉県深谷市下手計 1 2 0 4.

建造／オープン時期 昭和57年（1982年）.

開館日時 9:00-17:00 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）.

入館料 無料.

運営母体 渋沢栄一記念館

概要 資料室には渋沢栄一ゆかりの遺墨や写真など、たくさんの資料が展示されています。講義室では、2020年に完成した渋沢栄一アンドロイドによる講義を見学することができます。当時の渋沢栄一の風貌を忠実に再現しており、アンドロイドが語る言葉を通して、在りし日の渋沢栄一の考え方を今に伝えます。その他、体育室では渋沢栄一に関する映像を見ることができます。.

■誠之堂・清風亭



住所	埼玉県深谷市起会110-1（大寄公民館敷地内）
建造／オープン時期	平成11年（1999年）に東京都世田谷区から深谷市に移築
開館日時	9:00-17:00（最終入場16:30） 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）
入館料	無料
運営母体	深谷市教育委員会
概要	「誠之堂」と「清風亭」の2つの建物は、深谷市で生まれた渋沢栄一ゆかりの建物で、平成11年に東京都世田谷区から深谷市に移築されました。ともに建築史上、重要な建物で、「誠之堂」は平成15年、国の重要文化財に、「清風亭」は平成16年、埼玉県指定有形文化財に指定されました。 「誠之堂」は、大正5年（1916）、渋沢栄一の喜寿（77歳）を祝って第一銀行の行員たちの出資により建築されました。煉瓦造平屋建、建築面積112平方メートル。外観は英国農家に範をとりながらも、室内外の装飾に、中国、朝鮮、日本など東洋的な意匠を取り入れるなど、様々な要素が盛り込まれ、それらがバランスよくまとめられています。設計者は、当時の建築界の第一人者であった田辺淳吉。 「清風亭」は、大正15年（1926）に、当時第一銀行頭取であった佐々木勇之助の古希（70歳）を記念して、清和園内に誠之堂と並べて建てられました。建築資金は、誠之堂と同じくすべて第一銀行行員たちの出資によるものでした。建築面積168平方メートルで、鉄筋コンクリート造平屋建。外壁は、人造石掻落し仕上げの白壁で、対称的に黒いスクラッチタイルと鼻黒煉瓦がアクセントをつけています。設計者は、銀行建築の第一人者の西村好時。

■青淵公園



住所	埼玉県深谷市下手計1241
建造／オープン時期	昭和12年（1937年）
概要	昭和12年に皇太子明仁親王の生誕奉祝記念事業として、八基村青年団により建てられました。清浦奎吾揮毫、栄一の甥にあたる渋沢治太郎撰書。栄一の雅号を冠した公園を流れる清水川にかかる橋には、郷土の偉人たちの名がつけられています。

[煉瓦関連施設]

■深谷駅



住所 埼玉県深谷市西島町3丁目1-8

建造／オープン時期 明治16年（1883年） ※現在の駅舎は平成8年（1996年）竣工

概要 埼玉県深谷市の中心に位置する、JR高崎線の駅。1883年に日本鉄道が開設。実業家の渋沢栄一誕生の地で、かつては彼の設立した日本煉瓦の工場へ貨物専用線が分岐しており、都心に点在する数々の名建築物に使われた煉瓦はここから積み出された歴史があります。現在の深谷駅は、平成8年に竣工されたもので、東京駅が深谷産の煉瓦を使用していることから、東京駅をイメージして造られました。この駅は、渋沢栄一の顕彰と煉瓦を活かしたまちづくりを進める深谷市にとって、シンボリックな存在となっており、「関東の駅百選」にも選ばれています。駅南口には「ふっかちゃんの石像」、駅北口には「渋沢栄一からくり時計」が設置されているほか、ステーションガーデンがあり、一年を通して花で皆さんをお出迎えます。

■深谷市役所



住所 埼玉県深谷市仲町11-1

建造／オープン時期 令和2年（2020年）

概要 深谷市役所新庁舎は「安全・安心」、「市民サービスの向上」などをコンセプトにして建設され、令和2年7月27日に開庁式が行われました。市民に親しまれ、まちづくりの活性化につながる庁舎として「深谷らしさ」を大事にし、多くの煉瓦が使用されています。4階建ての低層で伸びやかな煉瓦の外観や、市民の憩い語らいの場となる「レンガコリドー」により「レンガのまち深谷」をアピールし、深谷の新たな景観となっています。

■福川鉄橋



住所 埼玉県深谷市原郷574-2

建造／オープン時期 明治28年（1895年）

概要 日本煉瓦製造株式会社で製造した煉瓦を輸送するために、明治27年から深谷駅と工場間の引込線の建設が始まりました。福川鉄橋は、唐沢川、福川、備前渠の3か所に架設された鉄道橋のうち、福川に架けられたもので、福川本流にかかるプレート・ガーダー橋と、北に隣接する水田にかかるボックス・ガーダー橋で構成されたものです。現在は、福川に沿った公園内に移設されています。特に、プレート・ガーダー橋は、イギリス人鉄道技師ポーナルが作成したポーナル型プレート・ガーダー（鋼板桁）基本定規によって作られた橋としては、現存する日本最古（明治28年）のものです。

[観光施設]

■道の駅おかべ



住所 埼玉県深谷市岡688-1

建造／オープン時期 平成9年（1997年）

開館日時 物産所…8:00-19:00

直売所…8:30-19:00

飲食店…そば蔵 8:00-18:00

あさみ珈琲店 平日：8:00-18:00 土日祝日：7:00-18:00

百緑むすび 9:00-18:00

NOLA 深谷のめぐみ食堂 11:00-17:30

定休日：年中無休

運営母体 ふかや物産観光株式会社

概要

日本有数の野菜産地深谷市の肥沃な大地で育った全国ブランド『深谷ねぎ』を代表に、安全・安心・新鮮な本場の野菜や切花を扱う「農産物直売センター」、200種類以上の品揃えを誇る地元特産お漬物をはじめとする特産加工品や地酒が揃う「ふるさと物産センター」、郷土料理や地元食材を使用したメニューが楽しめるレストランなど、地元の食と魅力をたっぷりと取り揃えています。

■道の駅はなぞの



住所

埼玉県深谷市小前田458-1

建造／オープン時期

平成11年（1999年）

開館日時

平日 7:00～19:00 / 土日祝 7:00～19:00 定休日：年中無休

運営母体

ふかや物産観光株式会社

概要

道の駅はなぞの本館のR140ショップは国道140号（熊谷～秩父・長瀬エリア）の魅力的な商品、「ふかやセレクト」では地元の方々と共同開発した商品や特産品をご用意しております。「ふかやコート」は、イートインコーナーを併設し、深谷～秩父の食べ歩き商品や無添加ジェラートを提供。本館2Fの「ベーカリーズキッチンOhana」では地元特産品を取り入れたこだわりの焼きたてパンを120種類以上提供。開放感のある居心地良いテラス席をご用意しています。「ふっかちゃんミュージアム」は深谷市のイメージキャラクター『ふっかちゃん』のミュージアム&ショップです。ゆるキャラグランプリ受賞時の記念品展示やキッズスペース、深谷の情報を発信しています。

■道の駅かわもと



住所	埼玉県深谷市長在家1279-2
建造／オープン時期	平成13年（2001年）
開館日時	物産館…9:00～17:00（定休日：12月29日～1月3日） JAふかや農産物直売所…9:00～17:00（定休日：9月30日、12月31日～1月4日、3月31日） 飲食店…11:00～15:00（定休日：月曜日（テナントにより変動）、12月29日～1月3日）
運営母体	深谷市
概要	地元で作られた季節の野菜を販売する農産物直売所や植木および展示コーナー等の様々な施設があります。併設されている物産館では、特産品の展示や川本農産物直売所で販売されている農産物などを使った飲食店が設けられています。

■ふかや花園プレミアム・アウトレット



住所	埼玉県深谷市黒田169
建造／オープン時期	令和4年（2022年）
開館日時	10:00～20:00（レストラン：11:00～21:00 カフェ：9:30～20:00）
入場料	無料
運営母体	三菱地所・サイモン株式会社
概要	ふかや花園プレミアム・アウトレットは、プレミアム・アウトレットの魅力である“ワクワクに満ちた、買い物が思い出になるショッピング体験”はもちろん、自然豊かな深谷市および埼玉県北西部の魅力を活かした「地域との共生」と、様々なニーズを持つお客様が「思い思いの過ごし方を楽しめる場所」をテーマとしたアウトレットモールです。ハイエンドブランドを中心に133店舗が出店し、うち、埼玉県の名店を含む個性豊かな飲食・食物販店舗は充実の40店舗がオープンしました。また、日本初「あそび! ガリガリ君」アトラクションエリア、アート作品、デイリーユースな店舗/サービスなど、地域の魅力と共に滞在時間をより楽しめるコンテンツも登場します。さらに「深谷テラスパーク」やキューピー株式会社が手掛ける「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」も隣接し、ふかや花園駅から、徒歩3分とアクセスにも恵まれ、まさに地域と共生し、思い思いに楽しめる新たな情報発信・観光拠点となります。

■深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム



住所	埼玉県深谷市黒田字上反54
建造／オープン時期	令和4年（2022年）
開館日時	<マルシェ> 平日：9:00～18:00／土日祝：9:00～20:00 <レストラン> ランチ11:00～17:00（LO 16:00） ディナー18:00～21:00（営業日：金・土・日、完全予約制） 休業日：不定休
入場料	無料
運営母体	キューピー株式会社
概要	キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）は、埼玉県深谷市が進めている「花園IC拠点整備プロジェクト」の一環として、野菜の魅力を経験できる複合型施設「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を、2022年5月29日（日）に開業。“野菜にときめく、好きになる！みんなの笑顔を育むファーム”をコンセプトに、いのちと彩りを感じられる「体験農園」、食べ頃や食べ方が分かる・選べる「マルシェ」、旬の恵みに出会える・幸せになれる「レストラン」、触って食べて五感で学べる「野菜教室」などを展開しています。

■深谷テラspark



住所	埼玉県深谷市黒田41
建造／オープン時期	令和4年（2022年）
開館日時	管理棟の利用時間：9:00～17:00 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）

概要 深谷市の農業と観光の魅力を発信する場として整備された深谷テラスパーク。広大な園内には楽しいスポットが盛りだくさん！マルシェなど様々なイベントを開催予定の円形広場を中心に、深谷市の野菜や花をモチーフにしたオリジナルの大型遊具、深谷市の魅力を情報発信する大型デジタルサイネージや秩父・群馬方面の山々を一望できるパノラマデッキ、水遊びを楽しめるじゃぶじゃぶ池など、多彩な施設があります。

■アクアパラダイス パティオ



住所 埼玉県深谷市榎合763
建造／オープン時期 平成8年（1996年）
開館日時 営業時間：10時～21時 ※夏期7月20日～8月31日の営業開始は9時からになります。
休館日：毎週火曜日 ※夏休み期間は休まず営業します。
2月はメンテナンスのため長期休館となります。
入場料 個人利用 一般 2,000円、小中学生 1,000円
ネギーカード利用 一般 1,400円、小中学生 700円
運営母体 深谷市
概要 南ヨーロッパ、地中海沿岸のリゾート地をイメージした北関東最大の全天候型屋内レジャープールが目玉です。屋外の花みどりコーナーには、大小5つの広場と花壇があります。

■ふかや緑の王国



住所 埼玉県深谷市櫛引24-2
建造／オープン時期 平成20年（2008年）
開館日時 9:00～18:00（4月～9月）、9:00～17:00（10月～3月）
定休日：年末年始（12/29～1/3）
運営母体 深谷市

概要

ふかや緑の王国は、「市民がつくり、市民が守り育てる、市民の森」として、ガーデニングふかやを推進する市民活動の拠点施設です。梅や椿、楓など多くの樹木があり、ボランティアの手で四季折々の花を咲かせ、多くの来園者の憩いの場となっています。また、梅まつり、ホテル観賞会、森の音楽祭、秋の王国フェスタ、収穫体験など四季折々のイベントや自然環境学習などを市とボランティアが協働で実施しています。

■深谷城址公園



住所

埼玉県深谷市本住町17

建造／オープン時期

大正13年（1924年）

開館日時

9:00～18:00（4月～9月）、9:00～17:00（10月～3月）
定休日：年末年始（12/29～1/3）

運営母体

深谷市

概要

室町時代中期の1456（康正2）年に上杉家4代目の上杉房憲が築城した深谷城の城址を整備して造られた、広さ約1.8haの広大な公園。園内には市民文化会館やコミュニティセンターを併設しているほか、公園全体を使っての催しに利用されることも多く、毎年4月下旬にはガーデニングコンテストやイベントなど、花の競演が楽しめる「ふかや花フェスタ」を開催しています。

■仙元山公園



住所

埼玉県深谷市上野台2565

建造／オープン時期

平成9年（1997年）

開館日時

8:30～17:00（多目的広場） 定休日：年末年始（12月29日～1月3日）

運営母体

深谷市、公益財団法人 深谷市地域振興財団（わんぱくランド） 他

概要 ローラー滑り台やバッテリーカー等の多種類の遊具を設置する公園。陸上競技場、野球場、スケートパーク等のスポーツ施設も併設しています。

■ 畠山重忠史跡公園



住所 埼玉県深谷市畠山510-2

運営母体 深谷市

概要 畠山重忠公の館跡で、現在は公園として整備されています。園内には重忠公とその家臣の墓といわれている五輪塔があり、ほかに重忠産湯の井戸と伝えられる井戸や重忠公の銅像などがあります。

■ 中宿歴史公園



住所 埼玉県深谷市岡3286-2

建造／オープン時期 平成9年（1997年）

概要 中宿遺跡からは、奈良時代～平安時代に使われた大規模な倉庫群跡が発見されました。古代榛沢郡の正倉（税として徴収した稲を保管する倉庫）と推定されており、県内初の調査例として話題を集めました。現在は「中宿歴史公園」として整備され、古代倉庫2棟が復元されています。また、公園の横には「道の駅おかべ」があり、週末は大勢のお客さんで賑わいます。

■深谷ビッグタートル



住所 埼玉県深谷市上野台2568

建造／オープン時期 平成5年（1993年）

概要 深谷市総合体育館・深谷ビッグタートルは、外壁に地元特産（現在工場は閉鎖され製造はしていません）である深谷赤レンガが使われ、施設内には大理石の巨大な柱が立ち並ぶ1万2千㎡の床面積と多様な機能を持つ体育館です。ビッグタートルを取り巻く公園の全体面積は32haで、後方には散歩道がめぐる15haの丘陵型ミニ森林公園・仙元山があり、周囲には陸上競技場、野球場、テニスコート、多目的グラウンドなど、多数の屋外スポーツ施設のほか、遊園地も併設された全国でも数少ない恵まれた環境にある総合体育館といえます。山のふもとには、深谷上杉氏菩提寺の名刹・昌福寺（緑と散歩道の維持管理に貢献）があり、頂上には南北朝時代から続く古社・浅間神社もあります。

■鐘撞堂山



住所 埼玉県深谷市武蔵野34-1

概要 鉢形城の見張り山として、異変が生じると鐘を撞いて知らせていたと伝えられています。関東平野を一望できる眺望が素晴らしく、現在ハイキングコースが整備され、展望台が設置されています。

■川本出土文化財管理センター



住所	埼玉県深谷市菅沼1019
建造／オープン時期	平成5年（1993年）
開館日時	月曜日～金曜日（定休日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、臨時休館もあり） 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まででございます。）
入館料	無料
概要	深谷市川本出土文化財管理センターは市内で発掘調査された出土品の保存管理を目的として設置されました。主な業務としては、発掘調査・出土品整理作業で、代表的な出土品の展示や土器・石器作り教室の開催など、文化財保護事業の拠点となっています。

■川本サングリーンパーク



住所	埼玉県深谷市本田5990
建造／オープン時期	平成13年（2001年）
通常営業	（3月～6月・9～10月）9時～17時 （7月～8月）9時～18時 （11月～2月）9時～16時 定休日：毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）
概要	川本サングリーンパークは、豊かな自然とのふれあいの中で、余暇の活用や学習の場を提供するとともに、市産業の振興や地域の発展と住民福祉の増進に資するために、平成2年に埼玉県農林公園の開園と併せて整備されました。施設内には駐車場、変形自転車、パターゴルフ、マジックハウス、バーベキューコーナー、さくら鉄道、農村伝統継承館、親水広場、芝生広場、さくら庭園などがあり、隣接する埼玉県農林公園内にはミニSLがあります。また、四季折々で各種イベントを開催しています。

■幡羅官衙遺跡群



住所
概要

埼玉県深谷市東方・熊谷市西別府

幡羅（はら）遺跡は、熊谷市との境付近に位置し、東西約500メートル、南北約400メートルの範囲をもつ、古代幡羅郡家（郡役所）跡です。その南や西には集落が広がっていました。また、熊谷市側には、寺院跡や祭祀跡があります。郡家の景観を非常に良く残した遺跡です。遺跡は平成13年に確認されました。7世紀後半になって、それまで古墳が造られていた台地の先端部に、突如として出現します。当初、竪穴建物が分布する中に小規模な倉庫などの掘立柱建物が分散して建てられます。7世紀末頃になると様相は一変し、工房や厨房施設など一部を除いて竪穴建物は遺跡の南部、西部に集約され、郡家域や集落域は分離していきます。郡家域には、正倉・館・厨家・曹司・道路などが整備され、未確認ですが、郡庁も同時期に造営されたものと思われます。旧地形は現在以上に起伏があったと思われ、郡家の建物は、比較的高い場所を選んで建てられています。遺跡の中央には、路面幅約8メートルの道路が斜め方向に走り、その北西に正倉院、南東に実務的な官衙施設が造られます。正倉院は8世紀末頃に礎石建物への建て替えや敷地の拡張が行われ、10世紀前半或いは中頃に廃絶し、10世紀後半には集落化していきます。また、実務官衙域の東には西別府廃寺跡があり、寺院は郡家が整備されるのとほぼ同じ時期に造営されています。郡家近くに寺院が造営される例は各地で見られますが、公的な寺院ではなく、郡領層の氏寺的な性格を持っていたと考えられます。9世紀後半になると、建物ブロックが複数あった実務官衙域には、二重溝と土塁による区画施設が造られ、郡家の構造が大きく変化します。この区画施設は、正倉廃絶後の11世紀前半まで存続していたと推定されます。

■鹿島古墳群



住所
概要

埼玉県深谷市本田191

川本地区本田の荒川右岸の河岸段丘上には100基を越す古墳が分布していたといわれ、この内、東西800mにわたって分布する56基の古墳が埼玉県指定史跡の範囲に含ま

れています。古墳が造られたのは、6世紀後半から8世紀初頭まで、その多くが直径10～20mほどの小規模な円墳です。この地域を治めていた豪族の墓域と考えられます。古墳の数や分布範囲の広さにおいて埼玉県でも有数の規模をもつ古墳群として昭和47年に埼玉県指定史跡に指定されました。現在史跡の敷地内には、初春のロウバイ、春の桜と菜の花、秋のヒガンバナが植えられ季節ごとの花を咲かせます。

■岡部六弥太忠澄墓



住所
概要

埼玉県深谷市普濟寺962

岡部六弥太忠澄は、猪俣党の出身で、猪俣野兵衛時範の孫、六太夫忠綱が岡部の地に館を構えたのを機に岡部氏と称するようになりました。忠澄は、治承・寿永の乱の際には、源氏方につき出兵しています。特に一の谷の戦いで、平家の名将平忠度を討った場面は、平家物語にも登場します。忠澄の墓は、普濟寺地区にあり、五輪塔が6基並んでいます。このうち最も大きいものが忠澄のものとしてされています。

〔連携が想定される関連施設の位置関係〕

候補施設は市内広域に分散しており、それぞれのエリアを結ぶ交通手段や駐車場等の整備が課題として考えられます。



2) 連携を図る工夫、仕組みの検討

a) 連携による新規性ある体験プログラムやお土産の開発

それぞれの施設が持っている強み・魅力を掛け合わせた新しい体験プログラムやお土産を開発し、それぞれの施設で提供します。各施設単独では考えられない魅力あるプログラムを生み出すとともに、市内の様々な魅力、観光資源を知ってもらうきっかけにします。

b) 展示を通じた関連施設の紹介

6号窯や資料館での展示において、解説や体験の内容に絡めて関連施設への案内を行うようにします。手法としてはグラフィックパネルへの二次元バーコード掲出などを想定しています。

c) マップ、パンフレットによる周遊支援

市内の観光資源をわかりやすく魅力的に紹介するマップの掲出・配布や、パンフレットの配布などを行います。また、様々なテーマ性を持たせたウォーキングコース・サイクリングコースなどの設定も検討していきます。

d) 周遊を支援する交通結節点としての整備

連携が想定される関連施設は徒歩移動が難しく、やや広域に散在していることもあり、本施設及び連携先施設へのサイクルポート（ラック）の設置やレンタサイクル貸出、施設間を結ぶシャトルバスの運行、団体向けバスにも対応した駐車場の整備など、交通結節点としての機能を整備することで広域での深谷周遊を促します。

e) 市内連携イベントの開催

渋沢栄一や深谷の歴史文化をテーマにしたスタンプラリー、出張ワークショップなど市内他施設の魅力に気づき、周遊を促すイベントを実施します。